

奈良県感染症情報センター

奈良県感染症情報センターについて

平成 24 年には、感染症発生動向調査における調査対象感染症に変更はありませんでした。そこで今回は、奈良県感染症情報センターが提供している情報の概要について記載します。

1. 週報

週報告対象疾患について、定点医療機関から毎週報告された感染症患者情報について、奈良市も含めた情報としてとりまとめ、原則、金曜日に週報として情報発信しています。週報には、定点当たりの患者報告数が多い上位 5 疾患の状況及び保健所医師による各地区の状況分析、また隔週には、各地区の小児科医療機関による外来患者状況に関するコメントを掲載しています。

その他、全数把握対象疾患の状況、保健環境研究センターウイルスチームが検出した病原体情報、結核患者情報について記載しています。また、月報告対象疾患報告状況についても記載しています。

また、この週報は、感染症情報センターホームページ上に掲載するだけでなく、依頼のあった関係機関(医療、教育、福祉及び行政機関等)や医師会に直接、メールで送信しており、積極的な情報発信を心がけています。

2. 気になる話題 ・ 保健環境研究センターだより

これから流行しそうな感染症や話題となっている感染症について、気になる話題としてとりまとめて情報提供しています。保健環境研究センターだよりでは、病原体検査を実施するウイルス・細菌担当からの病原体に関する専門的な情報を随時提供しています。これらは、週報と同時に発信します。

なお、外来患者情報を掲載した週報及び気になる話題・保健環境研究センターだよりについて、後に添付します。

3. ホームページ (<http://www.pref.nara.jp/27874.htm>)

上記、週報や気になる話題等の補完として、全数把握対象疾患報告の詳細や感染症発生状況を視覚的に捉えるようにするなど、情報提供に努めています。また、緊急性のある疾患について、随時情報提供しています。

4. 警報・注意報について

国立感染症研究所が全国の感染症発生動向調査データから定めた以下の基準に従い、警報・注意報を発令し、感染症予防・拡大防止に努めています。

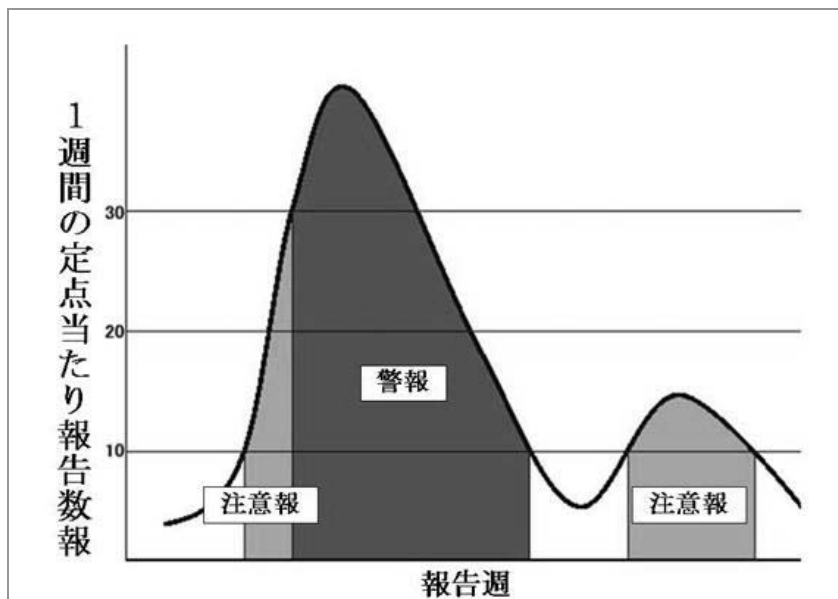
別表 警報・注意報レベルの基準値

対象疾患	警報		注意報
	開始基準値	終息基準値	基準値
インフルエンザ	30	10	10
咽頭結膜熱	3	1	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4	-
感染性胃腸炎	20	12	-
水痘	7	4	4
手足口病	5	2	-
伝染性紅斑	2	1	-
百日咳	1	0.1	-
ヘルパンギーナ	6	2	-
流行性耳下腺炎	6	2	3
急性出血性結膜炎	1	0.1	-
流行性角結膜炎	8	4	-

※基準値はすべて定点当たりの報告数です。注意報の「-」は対象としないことを意味します。

※基準値は、これまでの感染症発生动向調査データから、上記のように定められています。

参考 警報・注意報の発令・解除のタイミング図（例、インフルエンザ）



(国立感染症研究所 感染症疫学情報センターホームページより)



奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター
（奈良県保健環境研究センター内）
Nara IDSC



今週の概要

- 今週の感染症情報
- 気になる話題～インフルエンザ③～
- 保健環境研究センター1月日より
～ノロウイルスによる胃腸炎集団発生について～



（調査週） 平成 24 年 第 2 週 1 月 9 日（月）～1 月 15 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週前からの動向）

順位	疾患	定点当たり	奈良県	北 部	中 部	南 部
1	感染性胃腸炎	8.74	↑	→～↑	↑	→
2	インフルエンザ	8.11	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑
3	水 痘	1.86	→～↑	→～↓	↑↑	↓
4	流行性耳下腺炎	0.77	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑
5	RS ウイルス感染症	0.57	→～↓	→～↓	→	↓

※インフルエンザ定点当たり報告数が、葛城および吉野保健所管内で注意報レベル（10.00<）です（葛城保健所：10.27、吉野保健所：17.00）。

県北部地区概況 報告数は390例で、前週報告の232例から急増。上位5疾患は、①感染性胃腸炎、②インフルエンザ、③水痘、④流行性耳下腺炎、⑤RSウイルス感染症＝A群溶連菌咽頭炎の順。インフルエンザの報告数（81→199例）は、激増。感染性胃腸炎の報告数（130例）は、ほぼ倍増。流行性耳下腺炎の報告数（11例）は、やや増加。A群溶連菌咽頭炎の報告数（9例）は、ほぼ横ばい。RSウイルス感染症の報告数（9例）は、横ばい。水痘の報告数（19例）は、ほぼ半減。なお、インフルエンザ定点からの報告の内訳（内は定点当たりの報告数）は、奈良市HC管内：54例（4.91）、郡山HC管内：145例（9.06）だった。奈良市HC管内基幹定点から無菌性髄膜炎が1例（5～9歳児）、また、郡山HC管内基幹定点からは、マイコプラズマ肺炎が2例報告された。奈良市HC管内眼科定点から、急性出血性結膜炎の報告が1例あった。

（村井 記）

県北部外来状況：患者数はインフルエンザの流行とともに増加してきた。インフルエンザは正月休診で一旦減少したが、先週あたりより再び増加し、中旬以降は完全な流行状態となっている。大部分が迅速検査ではA型で、精密検査をしたものはAH3N2（香港型）が検出されている。B型は僅かである。同時に感染性胃腸炎も流行が始まっている。現在は保育園児とその家族が多い。精密検査を行ったものではノロウイルスが検出されている。咳がしつこく続くマイコプラズマ肺炎を疑わせる例が成人によくみかけ、マクロライドやミノサイクリンで解熱し、軽快している。（矢追 記）

県中部地区概況 報告数は、第1週の240例から第2週は425例と増加した。上位の5疾患（第1週→第2週）は、①感染性胃腸炎（89例→148例）、②インフルエンザ（99例→185例）、③水痘（13例→44例）、④流行性耳下腺炎（10例→15例）、⑤RSウイルス感染症（9例→11例）の順であった。感染性胃腸炎が1位、インフルエンザが2位、水痘が3位、流行性耳下腺炎が4位、RSウイルス感染症が5位で、順位は第1週と同じであった。眼科定点からは葛城HCより流行性角結膜炎2例の報告があった。基幹定点からは葛城HCよりマイコプラズマ肺炎1例の報告があった。（徳田 記）

県中部外来状況：外来数は第1週からインフルエンザ流行に伴い増加。学童が殆どで成人、乳幼児は少ない。学校での流行が主と思われる。インフルエンザA型が主流でB型は1例あったのみ。症状は一時高熱になるが比較的軽症。感染性胃腸炎の流行もあり、嘔吐が主症状のノロウイルス様。輸液を要する例は今のところない。ロタは今冬まだない。細菌性の感染性胃腸炎は減少している。RS気管支炎が数例あり、外来で対応可能な例もあるが、呼吸速迫で酸素分圧80%の紹介入院例もあった。年長児でマイコプラズマ肺炎例あり。その他水痘が僅か。（岡本 記）

県南部地区概況 報告数（第1週→第2週）は71例→96例と増加。報告のあった疾患は①インフルエンザ（36例→62例）、②感染性胃腸炎（26例→28例）、③水痘（4例→2例）、③マイコプラズマ肺炎【基幹定点】（1例→2例）、⑤A群溶連菌咽頭炎（1例→1例）、⑤流行性耳下腺炎（1例→1例）であった。（柳生 記）

県南部外来状況：外来数はインフルエンザや感染性胃腸炎が増加し始めたが特に急増ということはない。インフルエンザは第1週で今季初めての患者があった。その後近隣の小学校の1クラスで流行、今週から学級（学年）閉鎖となった。既に成人での患者が増加しているようだが、幼小児等では今週あたりからそろそろ流行の始まりといったところか。迅速検査からA型陽性例はA香港型と思われる。今週になりB型も少し見られるようになった。A型で嘔吐や下痢の胃腸症状を伴うものがしばしばある。感染性胃腸炎もノロと思われるものが急増、家族内感染例も増加した。キャンピロもあり。A群溶連菌咽頭炎、水痘僅か。（山本 記）



奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター
 （奈良県保健環境研究センター内）
N a r a I D S C



● 今週の概要

- 今週の感染症情報
- 気になる話題～インフルエンザ④～
- 奈良県結核患者情報（12月）



（調査週） 平成 24 年 第 4 週 1 月 23 日（月）～1 月 29 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況 （奈良県上位 5 疾患）（5 週前からの動向）

順位	疾 患	定点当り	奈良県	北 部	中 部	南 部
1	インフルエンザ	41.71	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑
2	感染性胃腸炎	7.83	→	→	→	→
3	A 群溶連菌咽頭炎	0.91	↑	→	↑↑	→～↑
4	水痘	0.80	→～↓	↓	→～↓	→
5	RS ウイルス感染症	0.46	→～↓	→	↓	→

※県インフルエンザ定点あたり報告数が、全県で警報レベル（30.00≦）となっています。

県北部地区概況 報告数は1220例で、前週報告の837例から激増。上位5疾患は、①インフルエンザ、②感染性胃腸炎、③水痘、④A群溶連菌咽頭炎、⑤RSウイルス感染症の順。インフルエンザの報告数（614→1049例）は、激増。RSウイルス感染症の報告数（9例）は、横ばい。感染性胃腸炎の報告数（122例）は、減少。水痘の報告数（12例）は、やや減少。A群溶連菌咽頭炎の報告数（11例）も、やや減少。なお、インフルエンザ定点からの報告の内訳《（ ）内は定点当たりの報告数》は、奈良市HC管内：381例（34.64）、郡山HC管内：668例（41.75）で、両管内共に警報値（30.00）を第4週になり上回った。郡山HC管内基幹定点から、マイコプラズマ肺炎が1例報告された。また、奈良市HC管内眼科定点からは、流行性角結膜炎の報告が1例あった。（村井 記）

県北部外来状況：外来患者数はインフルエンザの大流行で多くなっている。AH3N2が主流だが、地域によってはB型も流行している。今のところ重症化はみられない。ノロウイルスの感染性胃腸炎も流行している。例年通り嘔吐は1日程度で軽快し下痢があったりなかったりしている。ロタはない。RSウイルス気管支炎も僅かだがみられる。（矢追 記）

県中部地区概況 報告数は、第3週の762例から第4週は1166例と著明に増加した。上位の5疾患（第3週→第4週）は、①インフルエンザ（570例→1001例）、②感染性胃腸炎（153例→118例）、③A群溶連菌咽頭炎（3例→16例）、④水痘（5例→13例）、⑤伝染性紅斑（1例→4例）＝流行性耳下腺炎（5例→4例）の順であった。インフルエンザが大流行しており、1001例と更に増加した。基幹定点からは、葛城HCよりマイコプラズマ肺炎1例の報告があった。眼科定点からは、葛城HCより流行性角結膜炎1例の報告があった。（徳田 記）

県中部外来状況：外来数はインフルエンザの流行で急増。学童は受診患者のほぼ100%がインフルエンザ陽性、殆どA型。幼児も増加中、B型も見られる。成人も罹患あり。今のところ重症例はない。予防接種済みの罹患例も多い。イナビル吸入後解熱しない例が何例かあった。感染性腸炎があり。嘔吐を主とするノロウイルス様。症状は軽症である。ロタは今冬一例もない。他に水痘が小流行中。RS気管支炎、マイコプラズマ肺炎は減少した印象。（岡本 記）

県南部地区概況 報告数（第3週→第4週）は257例→293例と増加。報告のあった疾患は、①インフルエンザ（186例→244例）、②感染性胃腸炎（42例→34例）、③A群溶連菌咽頭炎（5例→5例）、④RSウイルス感染症（12例→4例）、⑤水痘（6例→3例）、⑥手足口病（2例→1例）、⑥突発性発疹（0例→1例）、⑥ヘルパンギーナ（1例→1例）であった。（柳生 記）

県南部外来状況：外来数は増加した。インフルエンザが第3週後半から急増、第4週には市内全域、全年齢層で激増、学級閉鎖も急増している。現在殆どがA香港型の模様であるが、たまにB型も混在している。当初一部の小学校の1クラスに限定してB型の流行が見られ学級閉鎖となったが、その後他の学年や他校でも少し認めるようになった。インフルエンザワクチン接種済者の罹患が非常に多いが、高熱があっても普通感冒と区別がつかないような元気なものも多い印象。ノロ疑いの感染性胃腸炎も平行して見られる。浸出性扁桃炎の所見のないアデノウイルス感染症、溶連菌咽頭炎、RSウイルス感染症の疑いなどインフルエンザと紛らわしいものあり。手足口病あり。マイコプラズマ肺炎はなかった。（山本 記）



奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター
 （奈良県保健環境研究センター内）
Nara IDSC



● 今週の概要

- 今週の感染症情報
- 気になる話題～インフルエンザ⑥～
- 月報告対象感染症（性感染症・薬剤耐性菌感染症）発生状況（1 月月報）
- 病原体（ウイルス）検出情報（1 月）



（調査週） 平成 24 年 第 6 週 2 月 6 日（月）～2 月 12 日（日）
 奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週前からの動向）

順位	疾患	定点当たり	奈良県	北 部	中 部	南 部
1	インフルエンザ	31.95	→～↑	→～↑	→～↑	→～↑
2	感染性胃腸炎	4.51	→～↓	→～↓	→～↓	→～↓
3	A 群溶連菌咽頭炎	0.86	→～↑	↑	→～↓	→～↓
4	水 痘	0.66	→～↓	→	↓	↓
5	RS ウイルス感染症	0.46	→～↓	→～↓	→	→～↓

※インフルエンザ定点あたり報告数は、全県で警報レベル継続中です。

県北部地区概況 報告数は919例で、前週報告の1212例から急減。上位5疾患は、①インフルエンザ、②感染性胃腸炎、③A群溶連菌咽頭炎、④水痘、⑤RSウイルス感染症の順。A群溶連菌咽頭炎の報告数（24例）も、やや増加。水痘の報告数（18例）は、ほぼ横ばい。RSウイルス感染症の報告数（5例）も、ほぼ横ばい。インフルエンザの報告数（1065→786例）は、急減。感染性胃腸炎の報告数（73例）は、3週連続で減少。なお、インフルエンザ定点からの報告の内訳《（ ）内は定点当たりの報告数》は、奈良市HC管内；345例（31.36）、郡山HC管内；441例（27.56）で、両管内共に前週報告より減少するも、奈良市HC管内のみが警報レベルを継続中であった。郡山HC管内基幹定点から、マイコプラズマ肺炎が3例（1～4歳児、10～14歳児、20～24歳症例が各々1例ずつ）報告された。奈良市HCおよび郡山HC両管内眼科定点からの報告はなかった。（村井 記）

県北部外来状況：2月初旬をピークにインフルエンザが減少傾向になっている。大半がA型であるがB型も徐々に増えている。抗インフルエンザ剤の効果はどれも大差はない。A型とB型に今シーズン罹ったかたもそろそろ増えてきた。感染性胃腸炎はインフルエンザの流行に圧倒されたのか少ない。ロタウイルスは現在みられない。溶連菌感染症が増加傾向にある。（矢追 記）

県中部地区概況 報告数は、第5週の1106例から第6週は890例と減少した。上位の5疾患（第5週→第6週）は、①インフルエンザ（1001例→789例）、②感染性胃腸炎（66例→64例）、③RSウイルス感染症（6例→8例）、④咽頭結膜熱（3例→7例）、⑤突発性発疹（5例→6例）の順であった。インフルエンザは5週よりやや減少した。眼科定点からは、葛城 HC より流行性角結膜炎 2 例の報告があった。基幹定点からの報告はなかった。（徳田 記）

県中部外来状況：外来数はまだ多い。インフルエンザは若干減少の印象があるが、まだ迅速陽性例が続いている。主はA型であるがB型もある。幼児より中高生が多い。重症例はなくタミフル耐性と思われる例もない。感染性腸炎の流行も続いている。嘔吐を主とするノロウイルス様例が主。下痢、発熱を伴う例もある。幼児とその親の感染が多い。今冬ロタウイルスはない。他に水痘、RS、アデノ（腸炎）等があった。マイコプラズマは減少した。（岡本 記）

県南部地区概況 報告数（第5週→第6週）は244例→212例と推移。報告のあった疾患は、①インフルエンザ（214例→182例）、②感染性胃腸炎（13例→21例）、③RSウイルス感染症（3例→3例）、④A群溶連菌咽頭炎（1例→2例）、④突発性発疹（4例→2例）、⑥水痘（5例→1例）、⑥流行性耳下腺炎（0例→1例）であった。（柳生 記）

県南部外来状況：外来数は減少しているが日により変動あり。インフルエンザは第4週での激増をピークに週を追って減少しているが、まだ学級閉鎖もあちらこちらで続いている。A型が主であるが、B型が少しずつ増加、A型に続いてB型に罹患したものもある。A型の二度罹り例はない。マイコプラズマ肺炎も有り、注意が必要。溶連菌感染症もあり。感染性胃腸炎は目だって多くない。アデノウイルス有り。ロタは認めていない。（山本 記）



奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター
 （奈良県保健環境研究センター内）
Nara IDSC



● 今週の概要

■ 今週の感染症情報

■ 気になる話題～インフルエンザ⑧～



（調査週） 平成 24 年 第 8 週 2 月 20 日（月）～2月 26 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週前からの動向）

順位	疾患	定点当たり	奈良県	北 部	中 部	南 部
1	インフルエンザ	17.67	→～↓	→～↓	→～↓	↓
2	感染性胃腸炎	5.43	→	→～↓	→	→～↓
3	A 群溶連菌咽頭炎	0.71	→	→	→～↓	↓
4	水痘	0.46	→～↓	↓	→	→～↓
5	RS ウイルス感染症	0.31	→～↓	↓	→	→～↓

※インフルエンザ定点あたり報告数は、全県で警報レベル継続中です。

[警報開始基準値は30.00、警報終息基準値は10.00]

県北部地区概況 報告数は554例で、前週報告の736例から2週連続の減少。上位 5 疾患は、①インフルエンザ、②感染性胃腸炎、③A群溶連菌咽頭炎、④水痘、⑤流行性耳下腺炎の順。流行性耳下腺炎の報告数（5例）は、ほぼ横ばい。インフルエンザの報告数（573→434例）は、減少。感染性胃腸炎の報告数（82例）も、減少。A群溶連菌咽頭炎の報告数（18例）は、やや減少。水痘の報告数（6例）も、やや減少。なお、インフルエンザ定点からの報告の内訳《（ ）内は定点当たりの報告数》は、奈良市HC管内；193例（17.55）、郡山HC管内；241例（15.06）で、両管内共に3週連続での減少。郡山HC管内眼科定点から、流行性角結膜炎が1例報告された。郡山HC管内基幹定点からは、マイコプラズマ肺炎の報告が1例（1～4歳児）あった。（村井記）

県北部外来状況：インフルエンザの流行は、第 5 週（1/30-2/5）をピーク（95 人/週）に減少したが、40 人前後/週が続いている。A 型は減少したが B 型が増加してほぼ 1：1 程度になっている。今シーズンは 12 月より B 型が 5-10%検出されていたので、A 型と B 型の両方に 2 回感染している例や家族で来院して A 型と

う一人は B 型という例が例年より多くなっている。感染性胃腸炎は増えていない。（矢追 記）

県中部地区概況 報告数は、第 7 週の 804 例から第 8 週は 580 例に減少した。上位の 5 疾患（第 7 週→第 8 週）は、①インフルエンザ（658 例→447 例）、②感染性胃腸炎（109 例→95 例）、③水痘（7 例→8 例）、④咽頭結膜熱（2 例→7 例）、⑤RS ウイルス感染症（6 例→6 例）＝A 群溶連菌咽頭炎（16 例→6 例）＝突発性発疹（3 例→6 例）の順であった。インフルエンザは今年の 4 週、5 週がピークで、その後漸減し 8 週も 7 週より減少した。眼科定点からは、流行性角結膜炎 3 例（桜井 HC より 1 例、葛城 HC より 2 例）の報告があった。基幹定点からの報告はなかった。（徳田 記）

県中部外来状況：外来数はインフルエンザの減少に伴いやや減少傾向。インフルエンザは前々週より減少してきた。B 型が増加し始め A・B 型が同じ程度の流行となった。いずれも軽症で、重症例はなかった。今冬は予防接種済みの罹患例が多かった印象。高熱例でアデノの流行もある模様。陽性判定が出にくいのか、確定例はなかった。感染性胃腸炎の流行が続き、多くは嘔吐が主のノロウイルス様、軽症で輸液を必要とする例は殆どなかった。ロタウイルスが 1 例のみあった。RS 気管支炎様は減少、他に水痘がわずか。（岡本 記）

県南部地区概況 報告数（第 7 週→第 8 週）は 154 例→112 例と減少。報告のあった疾患は①インフルエンザ（135 例→91 例）、②感染性胃腸炎（8 例→13 例）、③RS ウイルス感染症（4 例→4 例）、④水痘（2 例→2 例）、⑤A 群溶連菌咽頭炎（1 例→1 例）、⑥伝染性紅斑（0 例→1 例）であった。（柳生 記）

県南部外来状況：外来数は減少した。第 4～第 5 週で大ブレイクしたインフルエンザも以後週を追うごとに急減しているものの、第 8 週ではまだ終息基準値を上回って多数見られた。A 型の他、B 型が半数で増加、今シーズン A、B 両方に罹患した者もちらほら見られるようになった。感染性胃腸炎は多くない。ロタは見られず。その他は溶連菌感染症、水痘が僅かに見られたのみ。（山本 記）



奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター
（奈良県保健環境研究センター内）
Nara IDSC



● 今週の概要

- 今週の感染症情報
- 気になる話題～インフルエンザ⑩～
- 月報告対象感染症（性感染症・薬剤耐性菌感染症）発生状況（2月月報）
- 病原体（ウイルス）検出情報（2月）



（調査週） 平成 24 年 第 10 週 3 月 5 日（月）～3 月 11 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週前からの動向）

順位	疾患	定点当たり	奈良県	北 部	中 部	南 部
1	インフルエンザ	11.82	↓	↓	↓	↓
2	感染性胃腸炎	6.37	→～↑	→～↑	→～↑	→～↓
3	A 群溶連菌咽頭炎	1.37	→～↑	→～↑	→～↑	↑↑
4	RS ウイルス感染症	0.31	→～↓	→	→	→～↓
4	水痘	0.31	↓	↓	↓	→～↑

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。
※保健所別インフルエンザ定点あたり報告数は、内吉野保健所管内を除き警報レベル継続中です。
[警報開始基準値は30.00、警報終息基準値は10.00]

県北部地区概況 報告数は459例で、前週報告の546例から減少。上位5疾患は、①インフルエンザ、②感染性胃腸炎、③A群溶連菌咽頭炎、④水痘、⑤RSウイルス感染症＝流行性耳下腺炎の順。感染性胃腸炎の報告数（105例）は、増加。A群溶連菌咽頭炎の報告数（31例）は、やや増加。流行性耳下腺炎の報告数（4例）は、ほぼ横ばい。RSウイルス感染症の報告数（4例）も、ほぼ横ばい。インフルエンザの報告数（399→305例）は、5週連続で減少。水痘の報告数（5例）も、減少。なお、インフルエンザ定点からの報告の内訳《（ ）内は定点当たりの報告数》は、奈良市HC管内：122例（11.09）、郡山HC管内：183例（11.44）での減少。奈良市HCおよび郡山HC両管内眼科定点からの報告はなかった。奈良市HC管内基幹定点からマイコプラズマ肺炎が1例（5～9歳児）、郡山HC管内基幹定点からは細菌性髄膜炎が1例（45～49歳症例）、それぞれ報告された。（村井 記）

県北部外来状況：外来患者数は減少してきました。インフルエンザは減少してきましたが、直近の週はA型が4例、B型が25例、特に週後半はB型ばかりとなっています。今シーズンAとB型に2回罹患した方が10例以上（例年は1-2例）と目立ちます。インフルエンザの減少と反比例して感染性胃腸炎が増加してきました。乳幼児はウイルス性が主流で、中学生以上は細菌性が多くみられます。38度以上の発熱は1日程度みられるものがありますが、嘔吐は軽症で下痢がやや長い例があります。（矢追 記）

県中部地区概況 報告数は、第9週の447例から第10週は441例にやや減少した。上位の5疾患（第9週→第10週）は、①インフルエンザ（316例→293例）、②感染性胃腸炎（80例→108例）、③A群溶連菌咽頭炎（18例→12例）、④咽頭結膜熱（6例→6例）、⑤RSウイルス感染症（7例→5例）＝突発性発疹（2例→5例）＝流行性耳下腺炎（4例→5例）の順であった。インフルエンザは今年の第4週、第5週がピークで、その後漸減し、第10週も第9週より減少した。眼科定点からは、流行性角結膜炎が葛城HCより1例報告があった。基幹定点からの報告はなかった。（徳田 記）

県中部外来状況：外来数はインフルエンザの減少に伴い減少傾向。B型が主となり、近小学校では学級閉鎖もある。今期（当院では）、重症例はなく、タミフル耐性と思われる例もなく、全般に軽症に経過した印象であった。また、予防接種済み例の感染、A、B両感染例も少なからずあった。感染性胃腸炎では、ロタウイルス陽性例が数例あった。年長児で嘔吐を主とするノロウイルス様例の流行も続いている。全身に小発疹多発、発熱なし、口内疹なしの不明発疹幼児例を散見しウイルス分離提出中。（岡本 記）

県南部地区概況 報告数（第9週→第10週）は67例→72例と推移。報告のあった疾患は、①インフルエンザ（49例→52例）、②感染性胃腸炎（11例→10例）、③A群溶連菌咽頭炎（3例→5例）、④水痘（2例→3例）、⑤RSウイルス感染症（2例→2例）、であった。（柳生 記）

県南部外来状況：外来数は横這いないしやや減少。インフルエンザはまだやや多く見られ、殆どがB型であった。発熱などの症状は軽いものが多いが二峰性の発熱を呈するものもやや多く見られた。嘔吐、下痢の胃腸症状が先行した例もあった。感染性胃腸炎が第10週から増加しており、小学高学年のロタや、4ヶ月児のアデノ腸炎（クリーム色泥状便）などがあった。水痘ややあり、溶連菌咽頭炎が僅か。アデノウイルス感染症もあった。（山本 記）



奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター
（奈良県保健環境研究センター内）
Nara IDSC



● 今週の概要

■ 今週の感染症情報

■ 気になる話題～インフルエンザ⑫～



（調査週） 平成 24 年 第 12 週 3 月 19 日（月）～3 月 25 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週間からの動向）

順位	疾患	定点当たり	奈良県	北 部	中 部	南 部
1	インフルエンザ	8.64	→～↓	→～↓	→～↓	→
2	感染性胃腸炎	4.29	→～↓	→	→～↓	→～↓
3	A 群溶連菌咽頭炎	0.80	→～↓	→～↓	↓	↑↑
4	流行性耳下腺炎	0.63	↑↑	↑	↑↑	→
5	水痘	0.43	→～↓	↓	→～↑	→～↓

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

※保健所別インフルエンザ定点あたり報告数は、吉野保健所管内のみ警報レベル継続中です。

[警報開始基準値は30.00、警報終息基準値は10.00]

県北部地区概況 報告数は325例で、前週報告の392例から減少。上位5疾患は、①インフルエンザ、②感染性胃腸炎、③A群溶連菌咽頭炎、④流行性耳下腺炎、⑤水痘の順。流行性耳下腺炎の報告数（8例）は、やや増加。インフルエンザの報告数（247→212例）は、7週連続で減少。A群溶連菌咽頭炎の報告数（14例）も、減少。水痘の報告数（5例）も、減少。感染性胃腸炎の報告数（76例）も、やや減少。なお、インフルエンザ定点からの報告の内訳《（ ）内は定点当たりの報告数》は、奈良市HC管内；88例（8.00）、郡山HC管内；124例（7.75）と、両管内共に減少。奈良市HCおよび郡山HC両管内基幹定点と眼科定点からの報告は、すべてなかった。

（村井 記）

県北部外来状況：外来患者数はインフルエンザ、花粉症、子宮頸がんワクチン接種等で依然として多い。インフルエンザは、ここ3週はB型のみを検出で、減ってはいるが下げ止まり状態で週20人弱の感染者がある。今シーズンはAとB型両方罹患した患者が目立つ。学校や幼稚園が春休みになったが減少していない。感染性胃腸炎はあまり多くないが、幼児ではロタウイルスが検出されている。（矢追 記）

県中部地区概況 報告数は、第11週の365例から第12週は308例に減少した。上位の5疾患（第11週→第12週）は、①インフルエンザ（242例→200例）、②感染性胃腸炎（72例→66例）、③流行性耳下腺炎（0例→14例）、④水痘（5例→9例）、⑤A群溶連菌咽頭炎（28例→7例）の順であった。インフルエンザは今年の第4週、第5週がピークで、その後漸減し、第12週も第11週より減少した。眼科定点からは、流行性角結膜炎が桜井HCより2例報告があった。基幹定点からの報告はなかった。（徳田 記）

県中部外来状況：外来数は横ばい。インフルエンザB型が年長児で流行中。幼児には少ない。A型は殆ど見られなくなった。軽症。感染性胃腸炎は少しずつ流行。乳児でロタウイルスが増加中。発熱、水様下痢、嘔吐と症状はやはり強い。その他水痘、A群溶連菌感染症が僅か。（岡本 記）

県南部地区概況 報告数（第11週→第12週）は72例→80例と推移。報告のあった疾患は、①インフルエンザ（51例→63例）、②感染性胃腸炎（13例→8例）、③A群溶連菌咽頭炎（4例→7例）、⑤水痘（0例→1例）、⑤突発性発疹（2例→1例）、であった。（柳生 記）

県南部外来状況：外来数は横這いで少ない方。インフルエンザは小学校の卒業式を前に、一部の学校、保育所でB型の流行があり、第12週で再び増加した。症状は普通のかぜと区別の付かない程度の軽いものも多く、また、嘔吐、下痢を主訴にあたかも感染性胃腸炎様の者もあった。感染性胃腸炎はノロと思われるものがやや。ロタ、アデノ、キャンピロバクターも少し。他はA群溶連菌咽頭炎僅かのみ。

（山本 記）



奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター
（奈良県保健環境研究センター内）

Nara IDSC



● 今週の概要

■ 今週の感染症情報



（調査週） 平成 24 年 第 14 週 4 月 2 日（月）～4 月 8 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週間からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北 部	中 部	南 部
1	感染性胃腸炎	5.60	→	→	→	→～↑
2	インフルエンザ	4.49	↓	↓	→～↓	↓
3	A 群溶連菌咽頭炎	0.66	→～↓	↓	→～↓	→～↓
3	水痘	0.66	→～↑	→～↑	↑	↓
5	咽頭結膜熱	0.29	↑	→～↑	↑	→

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は226例で、前週報告の282例から減少。上位5疾患は、①感染性胃腸炎、②インフルエンザ、③水痘、④A群溶連菌咽頭炎、⑤突発性発疹の順で、前週報告からインフルエンザと感染性胃腸炎の順位が逆転した。水痘の報告数（11例）は、やや増加。感染性胃腸炎の報告数（84例）は、横ばい。A群溶連菌咽頭炎の報告数（10例）は、ほぼ横ばい。突発性発疹の報告数（4例）も、ほぼ横ばい。インフルエンザの報告数（162→107例）は、9週連続で減少。なお、インフルエンザ定点からの報告の内訳は、奈良市HC管内；45例、郡山HC管内；62例だった。郡山HC管内眼科定点から、流行性角結膜炎の報告が1例あったが、奈良市HCおよび郡山HC両管内基幹定点からの報告はなかった。（村井 記）

県北部外来状況：外来患者数は春休みになり減少している。インフルエンザは3月中は週 20 人前後が続いていたが、4 月になり減少が目立ってきた。感染性胃腸炎は、例年に比べ少ないが、保育園の幼児ではロタウイルス陽性例がよくみられる。軽症例が多い。マイコプラズマ肺炎が疑われる発熱後咳の持続する例がインフルエンザの減少と反比例して増えている。（矢追 記）

県中部地区概況 報告数は、263 例から 255 例とわずかに減少した。上位 5 疾患は、感染性胃腸炎、インフルエンザ、水痘、A 群溶連菌咽頭炎、咽頭結膜熱の順であった。感染性胃腸炎は、94 例と横ばいであり、インフルエンザは 122 例と減少傾向である。眼科定点からは、桜井保健所より流行性角結膜炎 3 例の報告があった。基幹定点からの報告はなかった。（高木 記）

県中部外来状況：外来数は普通程度。インフルエンザB型が流行、先々週は学童が主であったが次第に幼稚園児に年齢層が下がって来た。症状は軽症、一旦解熱し、登校し再度の発熱で受診し診断する例もある。ロタウイルス陽性例が増加中。RSウイルス様（検査陰性）のゼーゼーの例、仮性クループ様の例等の呼吸器症状の乳児もやや多い。マイコプラズマ様の 4 歳児があった。水痘、流行性耳下腺炎が流行中。手足口病が 1 例あった。（岡本 記）

県南部地区概況 報告数（第 13 週→第 14 週）は 59 例→44 例と減少。報告のあった疾患は、①インフルエンザ（28 例→18 例）、①感染性胃腸炎（23 例→18 例）、③RS ウイルス感染症（2 例→4 例）、④A 群溶連菌咽頭炎（3 例→3 例）、⑤マイコプラズマ肺炎【基幹定点】（0 例→1 例）であった。（柳生 記）

県南部外来状況：外来数は多くないが少し増加傾向。インフルエンザがまた少しぶり返して流行している。全て B 型。症状は普通感冒と区別の付かない軽いものが多い。RS ウイルス感染症が第 14 週で 1～3 歳児で増加したが、入院を要するものはなかった。感染性胃腸炎はロタウイルスが乳児から学童まで広がっている。嘔吐が主で下痢はあまりなく便色も普通のものも見られる。キャンピロバクターもあり。マイコプラズマと思われる下気道炎例も多い。水痘も流行性耳下腺炎もなかった。（山本 記）

（感染症情報センター 記）



奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター
 （奈良県保健環境研究センター内）
Nara IDSC



● 今週の概要

- 今週の感染症情報
- 月報告対象感染症（性感染症・薬剤耐性菌感染症）発生状況（3月月報）
- 病原体（ウイルス）検出情報（3月）



（調査週） 平成 24 年 第 16 週 4 月 16 日（月）～4 月 22 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週前からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北 部	中 部	南 部
1	感染性胃腸炎	6.89	→～↑	→	↑	→
2	インフルエンザ	4.18	→～↓	→～↓	→～↓	→～↓
3	A 群溶連菌咽頭炎	0.63	→～↓	→～↓	→～↓	→～↑
4	水痘	0.57	→	→～↑	→～↓	↑
5	突発性発しん	0.40	→～↑	→	↑	→～↓

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は233例で、前週報告の233例と同数。上位5疾患は、①感染性胃腸炎、②インフルエンザ、③水痘、④A群溶連菌咽頭炎、⑤突発性発しんの順。感染性胃腸炎の報告数（93例）は、ほぼ横ばい。インフルエンザの報告数（104→109例）も、ほぼ横ばい。水痘の報告数（11例）も、ほぼ横ばい。A群溶連菌咽頭炎の報告数（7例）も、ほぼ横ばい。突発性発しんの報告数（5例）も、ほぼ横ばい。なおいまだに、インフルエンザ定点から、奈良市HC管内；44例、郡山HC管内；65例が報告されている。基幹定点と眼科定点からの報告は、奈良市HCおよび郡山HC両管内共になかった。（村井 記）

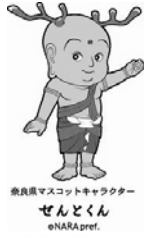
県北部外来状況： インフルエンザは、4月中旬には一旦消失したが、22日よりB型ばかりであるが、再び幼稚園や学校で増加してきた。学級閉鎖もあるようである。感染性胃腸炎は保育園の乳幼児でロタウイルス陽性例が増えており、嘔吐と熱は1日足らずと軽度であるが、下痢は頻回にある。同時に保護者も罹っている。対象疾患ではないが、インフルエンザが沈静化するに伴い、マイコプラズマ肺炎と思われる方が再び増えてきた。（矢追 記）

県中部地区概況 報告数は、278例から268例と減少した。上位5疾患は、感染性胃腸炎、インフルエンザ、A群溶連菌咽頭炎、突発性発疹、水痘およびマイコプラズマ肺炎の順であった。感染性胃腸炎は、131例と増加し、インフルエンザは98例と減少傾向である。基幹定点からは、マイコプラズマ肺炎1例の報告が、葛城保健所よりあった。眼科定点からの報告はなかった。（高木 記）

県中部外来状況： 外来数は減少傾向。インフルエンザはB型がまだあるが多くはない。症状は軽症。感染性胃腸炎は嘔吐のみの例が少し増加。乳児のロタウイルスは減少傾向。アデノウイルス（or ECHO, Coxsackie）の高熱持続例があるが、検査で陽性に出にくい印象。水痘が増加中、A群溶連菌感染症、流行性耳下腺炎もある。発熱なく、四肢全体、両頬に小発赤疹が散在する幼児例を散見する。（岡本 記）

県南部地区概況 報告数（第15週→第16週）は71例→49例と減少。報告のあった疾患は、①インフルエンザ（30例→23例）、②感染性胃腸炎（30例→17例）、③A群溶連菌咽頭炎（2例→5例）、④水痘（2例→2例）、⑤RSウイルス感染症（1例→1例）、⑥突発性発疹（3例→1例）であった。（柳生 記）

県南部外来状況： 外来数は横這い、日により増減している。第15週でインフルエンザ、感染性胃腸炎共に再び増加した。インフルエンザは全てB型で、市内一部の地域の保育所で流行、第16週では減少傾向となったが、校区の小学校や中学校でも少し見られるようになった。症状は軽症が多い。感染性胃腸炎は保育所でロタが流行、他にクリーム色便で腸管アデノもあった。キャンピロバクターも有り。他は水痘、A群溶連菌咽頭炎が少し程度。（山本 記）



奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター
 （奈良県保健環境研究センター内）
Nara IDSC



● 今週の概要

- 今週の感染症情報
- 春のこどもの感染症にご注意...



（調査週） 平成 24 年 第 18 週 4 月 30 日（月）～5 月 6 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況 （奈良県上位 5 疾患）（5 週前からの動向）

順位	疾患	定点当たり	奈良県	北 部	中 部	南 部
1	感染性胃腸炎	4.20	→～↓	→～↓	→～↓	→
2	インフルエンザ	0.93	↓	↓	↓	↓
3	水痘	0.66	→	→	→	→～↑
4	A 群溶連菌咽頭炎	0.49	→～↓	→	↓	→
5	突発性発しん	0.26	→～↓	→～↑	↓	→～↑

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は126例で、前週報告の201例から減少。上位5疾患は、①感染性胃腸炎、②インフルエンザ、③水痘、④A群溶連菌咽頭炎、⑤突発性発しんの順で、3週連続での同順位。突発性発しんの報告数（6例）は、横ばい。A群溶連菌咽頭炎の報告数（9例）は、ほぼ横ばい。インフルエンザの報告数（31例）は、ほぼ半減。感染性胃腸炎の報告数（60例）は、減少。水痘の報告数（10例）は、やや減少。インフルエンザ定点から、奈良市HC管内；5例（減少）、郡山HC管内；26例（ほぼ横ばい）、いまだ報告があった。基幹定点からは、奈良市HCおよび郡山HC両管内共に報告されなかったが、眼科定点から、郡山HC管内より急性出血性結膜炎；1例の報告があった。（村井 記）

県北部外来状況：外来患者数は連休前と谷間で増加した。インフルエンザは、一旦減少したが再び増加した。学校や地域で小流行があり、学級閉鎖もみられる。最近は全てB型です。感染性胃腸炎は、ロタウイルスの流行が保育園児でみられ、家族感染も生じている。症状は例年通り軽症で、適切に対処すると嘔吐は1日以内、発熱も1～2日、下痢が数日続く。溶連菌咽頭炎が再び増加してきている。（矢追 記）

県中部地区概況 報告数は、177例から105例と大幅に減少した。上位5疾患は、感染性胃腸炎、インフルエンザ、水痘、流行性耳下腺炎、A群溶連菌咽頭炎および伝染性紅斑の順であった。感染性胃腸炎は、63例と減少傾向であり、インフルエンザは58例から19例と大きく減少した。基幹定点および眼科定点からの報告はなかった。（高木 記）

県中部外来状況：外来数は減少。インフルエンザはほぼ終焉してきた。幼児で高熱例があるが咽頭発赤が強くインフルエンザ様ではなく検査実施例でも陰性。アデノ迅速検査は感度の点で陽性に出にくい印象。感染性胃腸炎は嘔吐を主とするノロウイルス様例が多い。ロタウイルスは減少。水痘が流行中、A群溶連菌感染症が少し。（岡本 記）

県南部地区概況 報告数（第17週→第18週）は53例→36例と減少。報告のあった疾患は、①感染性胃腸炎（18例→24例）、②A群溶連菌咽頭炎（8例→5例）、③水痘（5例→3例）、④突発性発疹（3例→2例）、⑤インフルエンザ（17例→1例）、⑥流行性耳下腺炎（0例→1例）であった。（柳生 記）

県南部外来状況：外来数は減少傾向。インフルエンザは第17週では一部の保育所でまだB型の流行が続いておりやや多かったが、第18週はゴールデンウィーク中となり、当院今期初めてのゼロ報告となった。感染性胃腸炎も第17週ではまだロタの流行があり、年長者にも見られたが、第18週では減少した。A群溶連菌咽頭炎、水痘がやや増加している。（山本 記）



奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター
 （奈良県保健環境研究センター内）
Nara IDSC



● 今週の概要

- 今週の感染症情報
- 全数把握対象感染症発生状況（平成 24 年 4 月） NEW
- 奈良県結核患者情報（平成 24 年 4 月） NEW



（調査週） 平成 24 年 第 20 週 5 月 14 日（月）～ 5 月 20 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週前からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	感染性胃腸炎	6.66	→	→	→～↑	→
2	水痘	1.09	→～↑	→～↑	→	↑↑
3	A 群溶連菌咽頭炎	0.91	→～↑	→	↑	→～↓
4	突発性発しん	0.51	→～↑	↑	↑	↓
5	咽頭結膜熱	0.40	→	→	→	→

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は 144 例で、前週報告の 168 例からやや減少。上位 5 疾患は、①感染性胃腸炎、②水痘、③A 群溶連菌咽頭炎＝突発性発しん、⑤咽頭結膜熱、の順。突発性発しんの報告数（10 例）は、やや増加。感染性胃腸炎の報告数（93 例）は、ほぼ横ばい。A 群溶連菌咽頭炎の報告数（10 例）は、ほぼ横ばい。水痘の報告数（18 例）は、ほぼ半減。咽頭結膜熱の報告数（4 例）は、やや減少。インフルエンザが、第 20 週になり上位 5 疾患からはずれた。眼科定点からの報告は、奈良市 HC および郡山 HC 管内共になかったが、郡山 HC 管内基幹定点から、マイコプラズマ肺炎が 1 例報告された。（村井 記）

県北部外来状況：患者数は減少している。インフルエンザは毎週 1 名 B 型に減少し、終焉したものと思われる。感染性胃腸炎も徐々に減少しているが、保育園児から小学生にロタなどウイルス性がみられる。咳が激しくなりマイコプラズマ肺炎が時々みられる。それ以外は昼夜の寒暖の差が激しいためかぜがよくみられる。（矢追 記）

県中部地区概況 報告数は、172 例から 187 例と増加した。上位 5 疾患は、感染性胃腸炎、A 群溶連菌咽頭炎、水痘およびヘルパンギーナ、咽頭結膜熱の順であった。感染性胃腸炎は、117 例と増加傾向であり、A 群溶連菌咽頭炎は 18 例と減少している。基幹定点からは、マイコプラズマ肺炎 1 例の報告が、葛城保健所よりあった。眼科定点からの報告はなかった。（高木 記）

県中部外来状況：外来数はこの季節にしてはやや多い。インフルエンザは終焉した印象。高熱の感冒が小学生の年齢層に多く、アデノ様であるが検査陰性、念のため実施のインフルエンザ陰性。経過はほぼ 2 日前後で軽症。幼児では咳の上気道炎が多い。感染性胃腸炎は、幼児を中心にノロ陽性例が多い。症状は、嘔吐が強く、幼児では腹痛を訴える例もあり、熱は微熱程度か、無熱の事も多い。下痢は水様下痢の例もあるが下痢のない例も多い。経過は 1～2 日で初日に点滴実施例もある。家族内感染が見られ同胞への罹患は多く成人例もあった。ロタ様例はなく検査も実施せず。水痘が流行中。児から感染の成人例もあった。（岡本 記）

県南部地区概況 報告数（第 19 週→第 20 週）は 35 例→36 例と推移。報告のあった疾患は、①感染性胃腸炎（19 例→23 例）、②水痘（5 例→9 例）、③A 群溶連菌咽頭炎（6 例→4 例）、であった。（柳生 記）

県南部外来状況：外来数は少し増加。インフルエンザは見られなくなった。発熱、頭痛の夏風邪様のものが出てきた一方、最近では喘息が増加している。感染性胃腸炎が増加しているが、乳幼児のロタの流行は無くなり、年長児や高学年でのロタ（－）アデノ（－）例が増加した。キャンピロバクターもあった。水痘の流行が続いている。他は A 群溶連菌咽頭炎が少し程度。（山本 記）



奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター
（奈良県保健環境研究センター内）
Nara IDSC



● 今週の概要

- 今週の感染症情報
- 細菌性食中毒にご注意… 第 2 話



（調査週） 平成 24 年 第 22 週 5 月 28 日（月）～ 6 月 3 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週間からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北 部	中 部	南 部
1	感染性胃腸炎	7.91	→～↑	→～↑	→～↑	→～↑
2	A 群溶連菌咽頭炎	1.89	↑	↑	↑	↑
3	水痘	0.80	→～↓	→～↓	→～↓	↑
4	咽頭結膜熱	0.63	→～↑	→	→～↑	→
5	突発性発しん	0.37	→	→～↓	↑	↓

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は 187 例で、前週報告の 184 例とほぼ変わらず。上位 5 疾患は、①感染性胃腸炎、②A 群溶連菌咽頭炎、③水痘、④咽頭結膜熱、⑤突発性発しん＝ヘルパンギーナ＝流行性耳下腺炎の順。感染性胃腸炎の報告数（129 例）は、なお増加中。ヘルパンギーナの報告数（4 例）は、やや増加。咽頭結膜熱の報告数（5 例）は、横ばい。突発性発しんの報告数（4 例）も、横ばい。流行性耳下腺炎の報告数（4 例）は、ほぼ横ばい。A 群溶連菌咽頭炎の報告数（26 例）は、やや減少。水痘の報告数（12 例）は、やや減少。なお、奈良市保健所および郡山保健所管内インフルエンザ定点から第 21 週（計 3 例）まで報告されていたが、第 22 週になり報告がなくなった。郡山 HC 管内からのみ、眼科定点より流行性角結膜炎：1 例と、基幹定点よりマイコプラズマ肺炎：1 例が、それぞれ報告された。（村井 記）

県北部外来状況 外来患者数は、減少しています。昼間は暑かったり、夜は涼しくなったりで所謂かぜで来院される方は増えていますが、対象感染症はあまりありません。感染性胃腸炎では、アデノウイルスによるしつこい下痢の幼児が目立ちます。ロタは最近ありません。3才以上の子で溶連菌咽頭炎が流行しています。治療ではセフェム系もアジスロマイシンも効きが悪くなってきている印象があります。（矢追 記）

県中部地区概況 報告数は、198例から203例とわずかに増加した。上位5疾患は、感染性胃腸炎、A群溶連菌咽頭炎、咽頭結膜熱、突発性発疹、水痘およびヘルパンギーナの順であった。感染性胃腸炎は、120例と増加傾向であり、A群溶連菌咽頭炎は27例と増加している。基幹定点からは、桜井保健所より、無菌性髄膜炎1例（30才代）の報告があり、葛城保健所より、マイコプラズマ肺炎1例（5-9才）の報告があった。眼科定点からは、葛城保健所より、流行性角結膜炎2例（20才以上）の報告があった。（高木 記）

県中部外来状況 外来数は多くはないがほぼ横ばい。高熱のアデノ様感冒があったが僅かに減少傾向。年長児でマイコプラズマ様咳嗽例がある。幼児ノロ陽性例があり、年長児もノロ様と思われる例が多い。家族内で、親に感染した例もあった。他に水痘が流行中、流行性耳下腺炎が少し。エコーかコクサッキーと思われる両頬・手・足に発疹が散在する例があった。（岡本 記）

県南部地区概況 報告数（第 21 週→第 22 週）は 25 例→53 例と増加。報告のあった疾患は、①感染性胃腸炎（17 例→28 例）、②A 群溶連菌咽頭炎（5 例→13 例）、③水痘（1 例→9 例）、④流行性耳下腺炎（0 例→2 例）、⑤流行性角結膜炎【眼科定点】（1 例→1 例）であった。（柳生 記）

県南部外来状況 外来数は少ないが、やや増加～横ばい。まだノロ疑い？の感染性胃腸炎がしばしば見られる。キャンピロバクターもあり。水痘も流行中、隔週で増加。A 群溶連菌咽頭炎少し。学童のマイコプラズマ肺炎あり。ミノマイシン内服にて著効を示した。アデノウイルス感染症も見られる。（山本 記）



奈良県マスコットキャラクター
せんとくん
©NARA.pref.

奈良県感染症発生動向調査 還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター **Nara IDSC**
(奈良県保健環境研究センター内)

■ 今週の概要

- 今週の感染症情報
- 全数把握対象感染症発生状況（平成 24 年 5 月）

（調査週）平成 24 年 第 24 週 6 月 11 日（月）～6 月 17 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週前からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	感染性胃腸炎	6.34	→	→	→	→～↓
2	A 群溶連菌咽頭炎	1.49	→	→～↑	→	→～↓
3	水痘	1.17	→	→	→～↓	↑
4	咽頭結膜熱	0.54	→	→～↓	→	→
5	流行性耳下腺炎	0.37	→～↑	↑	→	↓

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は 172 例で、前週報告の 137 例から増加。上位 5 疾患は、①感染性胃腸炎、②A 群溶連菌咽頭炎、③水痘、④流行性耳下腺炎、⑤突発性発しんの順。感染性胃腸炎の報告数（104 例）は増加。A 群溶連菌咽頭炎の報告数（25 例）も増加。水痘の報告数（19 例）はやや増加。流行性耳下腺炎の報告数（8 例）はほぼ横ばい。突発性発しんの報告数（6 例）もほぼ横ばい。奈良市保健所および郡山保健所両管内共に、眼科定点と基幹定点からの報告はなかった。
(村井 記)

県北部外来状況 外来患者数は季節の変わり目で風邪などが増えている。インフルエンザは完全になくなった模様です。感染性胃腸炎はウイルス性ではノロと思われるが増えてきている。細菌性も多く半々程度である。保育園でアデノウイルス感染症（咽頭結膜熱）が流行していた。溶連菌咽頭炎もみとめられる。流行性耳下腺炎が増加傾向にある。咳がひどくマイコプラズマを疑わせるものは減ってきた模様。
(矢追 記)

県中部地区概況 報告数は、219 例から 168 例と減少した。上位 5 疾患は、感染性胃腸炎、A 群溶連菌咽頭炎、咽頭結膜熱、水痘、RS ウイルス感染症および流行性耳下腺炎の順であった。感染性胃腸炎は 104 例、A 群溶連菌咽頭炎は 22 例といずれも横ばいである。眼科定点からは、流行性角結膜炎の報告が、桜井保健所より 1 例、葛城保健所より 1 例、計 2 例（1 才、50 才代）あった。基幹定点からの報告はなかった。
(高木 記)

県中部外来状況 外来数は多くなくやや減少傾向。アデノ様の短期の高熱、咽頭発赤例が多いが検査実施例で陽性を確認出来る例は少ない状況。感染性胃腸炎はノロウイルス様の嘔吐を主とする例が多い。乳児で検査実施確認例もある。マイコプラズマ様の例も散見。その他 A 群溶連菌感染症、水痘の流行が続いている。
(岡本 記)

県南部地区概況 報告数（第 23 週→第 24 週）は 25 例→36 例と増加。報告のあった疾患は、①水痘（7 例→15 例）、②感染性胃腸炎（9 例→14 例）、③A 群溶連菌咽頭炎（4 例→5 例）、④突発性発疹（1 例→1 例）、④ヘルパンギーナ（2 例→1 例）であった。
(柳生 記)

県南部外来状況 外来数は多少変動があるがあまり多くない。感染性胃腸炎は少なくなったが、ノロと思われる家族例などもある。キャンピロバクターが成人例の他、1 歳児でもあった。水痘が流行中。A 群溶連菌咽頭炎は成人例も見られる。マイコプラズマ肺炎様はその後増加見られず。
(山本 記)



奈良県感染症発生動向調査 還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター Nara IDSC
(奈良県保健環境研究センター内)

- 今週の概要
- 今週の感染症情報

(調査週) 平成 24 年 第 26 週 6 月 25 日 (月) ~ 7 月 1 日 (日)

奈良県および二次医療圏別発生状況 (奈良県上位 5 疾患) (5 週前からの動向)

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	感染性胃腸炎	3.46	→~↓	↓	→~↓	↓
2	A 群溶連菌咽頭炎	1.37	→	→	→	→~↓
3	水痘	1.09	→	→	→	→~↑
4	ヘルパンギーナ	0.71	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑
5	咽頭結膜熱	0.63	→	→~↑	→	→

全県の動きと目立って異なる推移 (定点当りの変化程度で実数ではない) を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は 119 例で、前週報告の 117 例からほぼ横ばい。上位 5 疾患は、①感染性胃腸炎、②A 群溶連菌咽頭炎、③水痘、④ヘルパンギーナ、⑤流行性耳下腺炎の順。A 群溶連菌咽頭炎の報告数 (22 例) は、やや増加。ヘルパンギーナの報告数 (12 例) も、やや増加。流行性耳下腺炎の報告数 (10 例) も、やや増加。水痘の報告数 (19 例) は、ほぼ横ばい。感染性胃腸炎の報告数 (35 例) は、減少。前週に引き続き眼科定点からの報告は、奈良市 HC および郡山 HC 両管内共になかったが、郡山 HC 管内基幹定点から、細菌性髄膜炎; 1 例 (0 歳児) およびマイコプラズマ肺炎; 2 例 (5~9 歳児と 10~14 歳児) が報告された。(村井 記)

県北部外来状況 外来患者数は少なくなっている。学校、園でプールが始まり、ヘルパンギーナ、手足口病、咽頭結膜熱など夏風邪が増え始めた。水痘や流行性耳下腺炎も小学校で流行し始めている。溶連菌咽頭炎は引き続き検出される。一方、感染性胃腸炎は減少している。(矢追 記)

県中部地区概況 報告数は、129 例から 143 例と増加した。上位 5 疾患は、感染性胃腸炎、A 群溶連菌咽頭炎、咽頭結膜熱、水痘およびヘルパンギーナの順であった。感染性胃腸炎は、79 例と減少傾向であり、A 群溶連菌咽頭炎は 21 例と横ばいである。ヘルパンギーナは 9 例と増加している。基幹定点および眼科定点からの報告はなかった。(高木 記)

県中部外来状況 外来数は横ばい、多くはない。短期の高熱のアデノ様感冒が多い。咳嗽例も多く、年長児ではマイコプラズマ肺炎がある。嘔吐を主とする感染性胃腸炎の流行がまだあり、幼児で、ノロ・ロタ両方陽性例があった。ノロウイルスキットは疑陽性に出やすい印象、直接採便 (腸粘液混入?) で出やすいとの説明であった。水痘が流行中。その他 A 群溶連菌感染症がわずか、ヘルパンギーナはなかった。ごく軽症の手足口病疑い例があった。(岡本 記)

県南部地区概況 報告数 (第 25 週→第 26 週) は 20 例→31 例と増加。報告のあった疾患は、①水痘 (5 例→10 例)、②感染性胃腸炎 (6 例→7 例)、③A 群溶連菌咽頭炎 (5 例→5 例)、④突発性発疹 (1 例→4 例)、④ヘルパンギーナ (2 例→4 例)、⑥流行性耳下腺炎 (1 例→1 例) であった。(柳生 記)

県南部外来状況 外来数は横這い、あまり多くはない。感染性胃腸炎は少なくなっている。高熱、頭痛が夏の夏かぜ様が多くなってきた。ヘルパンギーナも少しあり。発疹症も認められた。水痘の流行が続いている。溶連菌咽頭炎は減少傾向。マイコプラズマ肺炎が学童や中学生で見られるので注意が必要。(山本 記)

これらの内容は以下のホームページでさらに詳しくご覧いただけます

http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid-27874.htm



奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター **Nara IDSC**
 （奈良県保健環境研究センター内）



- 今週の概要
- 今週の感染症情報

（調査週）平成 24 年 第 28 週 7 月 9 日（月）～7 月 15 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週間からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	感染性胃腸炎	2.46	→～↓	→～↓	↓	→
2	ヘルパンギーナ	1.86	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑
3	A 群溶連菌咽頭炎	0.80	→～↓	↓	→～↓	→～↓
4	水痘	0.57	→～↓	→	↓	↓
4	突発性発しん	0.57	↑	↑	→～↑	↑

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は123例で、前週報告の113例からやや増加。上位5疾患は、①ヘルパンギーナ、②感染性胃腸炎、③水痘、④A群溶連菌咽頭炎＝突発性発しんの順となり、ヘルパンギーナが感染性胃腸炎に入れ代わって第1位となった。ヘルパンギーナの報告数（23→39例）は、増加。水痘の報告数（15例）は、減少。感染性胃腸炎の報告数（36例）は、ほぼ横ばい。突発性発しんの報告数（8例）は、やや増加。A群溶連菌咽頭炎の報告数（8例）は、やや減少。奈良市HC管内眼科定点から、流行性角結膜炎が1例報告された。また、奈良市HC管内基幹定点からの無菌性髄膜炎の報告が1例（10～14歳児）と、郡山HC管内基幹定点からの細菌性髄膜炎の報告が1例（60～64歳症例）、それぞれあった。（村井 記）

県北部外来状況 外来患者数は減少している。ほとんどが突然の高熱が1～2日間、咽頭痛、頭痛、嘔気のいわゆる夏風邪で、ヘルパンギーナはみられるが、手足口病はほとんどない。水痘と流行性耳下腺炎はやや増加してきた。感染性胃腸炎は細菌性が少しあるが、ほとんど無くなった。（矢追 記）

県中部地区概況 報告数は、137例から107例と減少した。上位5疾患は、感染性胃腸炎、ヘルパンギーナ、A群溶連菌咽頭炎、咽頭結膜熱、突発性発疹の順であった。感染性胃腸炎は、64例から40例と減少し、ヘルパンギーナは11例から18例と著明に増加している。基幹定点からは、マイコプラズマ肺炎1例（1～4才）の報告が、葛城保健所よりあった。眼科定点からの報告はなかった。（高木 記）

県中部外来状況 外来数は少ない。短期の発熱の夏風邪が主。軽症のヘルパンギーナが僅かに出てきた。典型例はまだ少ない。手足口病はまだない。感染性胃腸炎も減少傾向で嘔吐を主とする例が少し。調査情報ではまだインフルエンザ、ロタが検出されている様であるが（6月）疑われる例はなかった。（岡本 記）

県南部地区概況 報告数（第27週→第28週）は22例→29例と推移。報告のあった疾患は、①感染性胃腸炎（11例→10例）、②ヘルパンギーナ（3例→8例）、③突発性発疹（2例→4例）、④A群溶連菌咽頭炎（3例→3例）、⑤咽頭結膜熱（0例→2例）、⑥水痘（3例→1例）、⑦流行性耳下腺炎（0例→1例）であった。（柳生 記）

県南部外来状況 外来数はあまり多くない。発熱と軽い頭痛などの夏風邪がやや増加した他、ヘルパンギーナが少し流行し始めた。手足口病は見られず。感染性胃腸炎も少ない。細菌性のものもあまり見られず。A群溶連菌咽頭炎、水痘も少なくなった。その後マイコプラズマ感染症疑い例の増加もない。（山本 記）

これらの内容は以下のホームページでさらに詳しくご覧いただけます
http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid-27874.htm



奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター *Nara IDSC*
 （奈良県保健環境研究センター内）

● 今週の概要

■ 今週の感染症情報

（調査週）平成24年 第30週 7月23日（月）～7月29日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位5疾患）（5週前からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	ヘルパンギーナ	2.49	↑	↑	↑	↑↑
2	感染性胃腸炎	2.03	→～↓	→～↓	→～↓	→～↓
3	A群溶連菌咽頭炎	0.51	→～↓	↓	→～↓	→～↓
4	咽頭結膜熱	0.43	→～↓	→～↓	→	↑
5	水痘	0.26	↓	↓	↓	↓

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は87例で、前週報告の93例からやや減少。上位5疾患は、①ヘルパンギーナ、②感染性胃腸炎、③水痘、④A群溶連菌咽頭炎、⑤咽頭結膜熱＝手足口病の順で、ヘルパンギーナが第28週から3週連続での第1位。ヘルパンギーナの報告数（41例）は、やや増加。咽頭結膜熱の報告数（3例）は、横ばい。感染性胃腸炎の報告数（22例）は、ほぼ横ばい。手足口病の報告数（3例）も、ほぼ横ばい。水痘の報告数（6例）は、ほぼ半減。A群溶連菌咽頭炎の報告数（4例）は、ほぼ半減。奈良市HCおよび郡山HC両管内眼科定点からの報告はなかった。また、奈良市HC管内基幹定点から、無菌性髄膜炎が2例（1～4歳児、10～14歳児）報告された。

（村井 記）

県北部外来状況 外来患者数は、夏休みになり予防接種希望者以外は減少している。感染性胃腸炎は細菌性が僅かにあるのみとなっている。夏風邪は突然の高熱、頭痛、咽頭痛などのいわゆる夏風邪が一番多く、次いでヘルパンギーナがみられるが、今年は手足口病はほとんどない状態が続いている。流行初期のころに依頼したウイルス培養は全て検出不可であった。これ以外では、水痘と溶連菌咽頭炎がみられる。

（矢追 記）

県中部地区概況 報告数は、127例から105例と減少した。上位5疾患は、感染性胃腸炎、ヘルパンギーナ、A群溶連菌咽頭炎、咽頭結膜熱、突発性発疹の順であった。感染性胃腸炎は、44例と減少傾向であり、ヘルパンギーナは32例と増加している。基幹定点からは、葛城保健所よりマイコプラズマ肺炎1例（5～9才）の報告があった。眼科定点からの報告はなかった。

（高木 記）

県中部外来情報 外来数は多くない。アデノ様咽頭炎、軽度感冒症状が主。ヘルパンギーナ、手足口病は殆ど見られない。感染性胃腸炎が小流行。その他A群溶連菌感染症、水痘が少し。

（岡本 記）

県南部地区概況 報告数（第29週→第30週）は16例→28例と増加。報告のあった疾患は、①ヘルパンギーナ（4例→14例）、②感染性胃腸炎（6例→5例）、③突発性発疹（1例→3例）、④水痘（1例→2例）、④A群溶連菌咽頭炎（2例→2例）、⑥咽頭結膜熱（1例→1例）、⑥流行性耳下腺炎（0例→1例）であった。

（柳生 記）

県南部外来状況 外来数はやや増加したが余り多くはない。発熱、頭痛、咽頭痛などの夏風邪が多くなっている。ヘルパンギーナはあまり流行しないままに減少傾向。手足口病は全くない。感染性胃腸炎も少ない。水痘、流行性耳下腺炎もなし。咽頭結膜熱が僅かにあった。

（山本 記）

これらの内容は以下のホームページでさらに詳しくご覧いただけます
 アドレス http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid-27874.htm



奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター **Nara IDSC**
(奈良県保健環境研究センター内)

● 今週の概要

- 今週の感染症情報
- 月報告対象感染症（性感染症・薬剤耐性菌感染症）発生状況（7月月報）
- 予防接種・・・を知る(1)

（調査週）平成 24 年 第 3 2 週 8 月 6 日（月）～8 月 1 2 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週前からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	感染性胃腸炎	1.60	→～↓	→～↓	→	↓
2	ヘルパンギーナ	1.06	→～↓	↓	→～↓	→～↓
3	咽頭結膜熱	0.34	→～↓	↑	→～↓	↓
4	水痘	0.23	↓	↓	→～↓	↑
5	RS ウイルス感染症	0.17	↑↑	↓	↑↑	→

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は48例で、前週報告の99例からほぼ半減。上位5疾患は、①ヘルパンギーナ＝感染性胃腸炎、③A群溶連菌咽頭炎、④咽頭結膜熱、⑤手足口病の順で、ヘルパンギーナは5週連続で第1位。

咽頭結膜熱の報告数（4例）は、やや増加。A群溶連菌咽頭炎の報告数（5例）は、ほぼ横ばい。ヘルパンギーナの報告数（15例）は、ほぼ半減。感染性胃腸炎の報告数（15例）も、ほぼ半減。手足口病の報告数（3例）は、やや減少。奈良市HC管内眼科定点から、流行性角結膜炎が1例報告された。

また、郡山HC管内基幹定点より、マイコプラズマ肺炎の報告が1例（5～9歳児）あった。（村井 記）

県北部外来状況 外来患者数は予防接種を除いては少ない状態が続いている。突然の高熱と頭痛、咽頭痛を訴えるが診察所見に乏しい夏風邪は最近減少し、

ヘルパンギーナがやや増加している。手足口病はほとんどみかけない。水痘が少しずつみられたが、これも減少している。

（矢追 記）

県中部地区概況 報告数は、110例から80例と減少した。上位5疾患は、感染性胃腸炎、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱、RSウイルス感染症、水痘の順であった。感染性胃腸炎は、39例と横ばいであり、ヘルパンギーナは15例と減少傾向である。RSウイルス感染症は、0～2例から6例と急増している。基幹定点および眼科定点からの報告はなかった。

（高木 記）

県中部外来状況 外来数は少ない。短期の発熱の夏風邪が主。ヘルパンギーナが僅かに出てきたが少ない。手足口病はまだない。感染性胃腸炎も減少傾向。

（岡本 記）

県南部地区概況 報告数（第31週→第32週）は29例→12例と減少。報告のあった疾患は、①ヘルパンギーナ（20例→7例）、②水痘（1例→3例）、③感染性胃腸炎（2例→2例）であった。

（柳生 記）

県南部外来状況 外来数は少ない。ヘルパンギーナも僅か。手足口病はなし。他は水痘が僅かのみ。感染性胃腸炎も少ないが、キャンピロバクター+O111（ベロ毒素なし）3才の例などがあつた。益明けの外来も特に多くはないが、久しぶりの伝染性紅斑があつた。

（山本 記）



奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター *Nara IDSC*
 （奈良県保健環境研究センター内）



● 今週の概要

- 今週の感染症情報
- 気になる話題 予防接種…を知る(2)

（調査週）平成 24 年 第 34 週 8 月 20 日（月）～8 月 26 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週前からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	感染性胃腸炎	1.66	→	→～↓	→	↓
2	ヘルパンギーナ	0.66	↓	↓	↓	↓
3	突発性発しん	0.29	→	↑	→～↓	→～↑
4	咽頭結膜熱	0.26	→～↓	↓	→	↓
4	流行性耳下腺炎	0.26	↑	→	↑↑	↓

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は46例で、前週報告の62例から減少。上位5疾患は、①感染性胃腸炎、②ヘルパンギーナ、③突発性発しん、④RSウイルス感染症＝伝染性紅斑＝水痘＝流行性耳下腺炎の順。ヘルパンギーナの報告数(10例)は、やや増加。RSウイルス感染症の報告数(2例)も、やや増加。伝染性紅斑の報告数(2例)は、ほぼ横ばい。感染性胃腸炎の報告数(19例)は、減少。突発性発しんの報告数(5例)は、やや減少。水痘の報告数(2例)も、やや減少。流行性耳下腺炎の報告数(2例)も、やや減少。奈良市HCおよび郡山HC両管内眼科定点から、流行性角結膜炎の報告が各々1例ずつ計2例あった。また、郡山HC管内基幹定点からは、細菌性髄膜炎が1例(60～64歳症例)報告された。

（村井 記）

県北部外来状況 お盆前後で外来患者数は少ない。ヘルパンギーナやいわゆる夏風邪も減少している。7月のヘルパンギーナ女児例の咽頭ぬぐい液からコクサッキーA5が検出されたとの報告をいただいた。感染性胃腸炎は10歳以上で細菌性が少しみられる。

（矢追 記）

県中部地区概況 報告数は、55例から82例と増加した。上位5疾患は、感染性胃腸炎、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱、流行性耳下腺炎、水痘の順であった。感染性胃腸炎は、37例と横ばいであり、ヘルパンギーナは、10例と減少している。流行性耳下腺炎は、2例から7例と急に増加している。基幹定点および眼科定点からの報告はなかった。

（高木 記）

県中部外来状況 外来数は多くない発熱・鼻水の軽度の感冒が主。アデノ様の高熱例は少なくなった。今夏、ヘルパンギーナ、手足口病は殆どなかった。感染性胃腸炎も少なかった。

（岡本 記）

県南部地区概況 報告数(第33週→第34週)は18例→9例と減少。報告のあった疾患は、①A群溶連菌咽頭炎(1例→3例)、①ヘルパンギーナ(4例→3例)、③感染性胃腸炎(7例→2例)、④突発性発疹(0例→1例)であった。

（柳生 記）

県南部外来状況 当院盆休み明けの第33週後半以降も、外来数は特に多いということとはなかった。感染性胃腸炎やヘルパンギーナが少しずつと、伝染性紅斑が1例あった他、アデノウイルス感染症が少しあった程度。夏休みに入ってから部活などを通して感染したと思われる中学生のマイコプラズマ感染症疑い例もあった。

（山本 記）



奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター **Nara IDSC**
 （奈良県保健環境研究センター内）



● 今週の概要

- 今週の感染症情報
- 月報告対象感染症（性感染症・薬剤耐性菌感染症）発生状況（8月月報）
- 病原体（ウイルス）検出情報（8月）



（調査週）平成 24 年 第 36 週 9 月 3 日（月）～9 月 9 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週前からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	感染性胃腸炎	2.23	→～↑	↑	→	→～↓
2	突発性発しん	0.37	→～↑	↑	→～↓	↑↑
2	ヘルパンギーナ	0.37	↓	→～↓	↓	↓
4	RS ウイルス感染症	0.29	↑	↑↑	→～↓	→
4	A 群溶連菌咽頭炎	0.29	→	↑	↓	→～↑

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は90例で、前週報告の56例から増加。上位5疾患は、①感染性胃腸炎、②ヘルパンギーナ、③RSウイルス感染症、④A群溶連菌咽頭炎＝突発性発しんの順。感染性胃腸炎の報告数（37例）は、増加。ヘルパンギーナの報告数（10例）は、やや増加。RSウイルス感染症の報告数（7例）も、やや増加。A群溶連菌咽頭炎の報告数（6例）も、やや増加。突発性発しんの報告数（6例）も、やや増加。奈良市HCおよび郡山HC両管内眼科定点からの報告はなかったが、両管内基幹定点から、マイコプラズマ肺炎が各々順に1例、2例の計3例報告された。

（村井 記）

県北部外来状況 外来患者数は少ない。高熱、頭痛などのいわゆる夏風邪はほぼ消失、嘔吐と下痢が1日程度あるかぜ？が一部の保育園で流行している。中国旅行帰りの中学生と大学生でインフルエンザ（AH3N2）が2週続けて検出された。当院の従業員にも感染しさらにその家族にも感染した。イナビルもタミフルも効果をもとめた。マイコプラズマ肺炎がポツポツ程度の頻度で見られる。マクロライド系抗生剤はあまり解熱効果がない模様である。

（矢追 記）

県中部地区概況 報告数は、92例から63例と減少した。上位5疾患は、感染性胃腸炎、咽頭結膜熱、突発性発疹、RSウイルス感染症・水痘・ヘルパンギーナの順であった。感染性胃腸炎は、36例から39例と横ばいであり、咽頭結膜熱は10例から6例と減少傾向である。眼科定点からは、流行性角結膜炎1例の報告が、桜井保健所よりあった。基幹定点からの報告はなかった。

（高木 記）

県中部外来状況 外来数は、気候の変化、二学期の集団生活開始とともに増加。軽度の感冒程度であったが、次第に高熱、アデノ様の夏風邪様の例も出てきた。夏にいわゆる夏風邪罹患を免れた例に見られる傾向？尚、アデノ迅速検査は陽性に出にくい印象。感染性胃腸炎もあり、細菌性と思われる家族例もあった。流行性耳下腺炎がやや増加中。マイコプラズマ様の気管支炎例、伝染性紅斑、ヘルパンギーナ、非典型手足口病、などがほぼ1例ずつあった。

（岡本 記）

県南部地区概況 報告数（第35週→第36週）は10例→12例と推移。報告のあった疾患は、①A群溶連菌咽頭炎（7例→3例）、①突発性発疹（1例→3例）、③感染性胃腸炎（2例→2例）、③水痘（0例→2例）、⑤手足口病（0例→1例）、⑤マイコプラズマ肺炎【基幹定点】（0例→1例）であった。

（柳生 記）

県南部外来状況 朝晩涼しくなり外来数は少し増加したが、キャンピロバクターなどの感染性胃腸炎と溶連菌咽頭炎、突発性発疹症が少しあってだけで、その他の登録感染症は見られなかった。アデノウイルス感染症の家族例で、従兄弟から感染した先行の子供たちは順に2、3日の38度台の発熱があったのみで、最後に感染した母親になって扁桃の著明な白苔と5日間の高熱の持続が見られた。

（山本 記）



奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター **Nara IDSC**
 （奈良県保健環境研究センター内）



● 今週の概要

- 今週の感染症情報
- 奈良県結核患者情報（平成24年8月）
- 保健環境研究センター9月便り



（調査週）平成 24 年 第 38 週 9 月 17 日（月）～9 月 23 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週前からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	感染性胃腸炎	1.71	→	→～↓	→	↓
2	RS ウイルス感染症	0.74	↑↑	↑↑	↑	→
3	突発性発しん	0.43	→～↑	→	→～↑	→
4	A 群溶連菌咽頭炎	0.29	→	→	→～↑	→
4	手足口病	0.29	↑	↑	→	↑↑

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は66例で、前週報告の79例から減少。上位5疾患は、①感染性胃腸炎、②RSウイルス感染症、③突発性発しん＝手足口病、④A群溶連菌咽頭炎＝水痘の順。手足口病の報告数（6例）は、やや増加。RSウイルス感染症の報告数（16例）は、横ばい。突発性発しんの報告数（6例）は、ほぼ横ばい。水痘の報告数（3例）も、ほぼ横ばい。感染性胃腸炎の報告数（23例）は、減少。A群溶連菌咽頭炎の報告数（3例）は、やや減少。また、インフルエンザ定点から、奈良市HCおよび郡山HC両管内から各々1例ずつ計2例の報告があった。眼科定点からの報告は、奈良市HCおよび郡山HC両管内共になかったが、基幹定点からのマイコプラズマ肺炎の報告が、奈良市HC管内から1例と郡山HC管内から2例の計3例あった。（村井 記）

県北部外来状況 外来患者数は予防接種希望者を除くと少ない。対象感染症はほとんどない。最近、インフルエンザが週1名程度みられる。中学生から成人で、全身倦怠感と高熱で始まり、鼻汁がひどくなった後で咳が出ている。精密検査ではAH3N2（A香港型）の報告を受けている。

（矢追 記）

県中部地区概況 報告数は、77例から76例と横ばいである。上位5疾患は、感染性胃腸炎、RSウイルス感染症、突発性発疹、流行性耳下腺炎、咽頭結膜熱の順であった。感染性胃腸炎は、32例から36と横ばいであり、RSウイルス感染症は、6例から10例と増加している。基幹定点からは、マイコプラズマ肺炎1例の報告が、葛城保健所よりあった。眼科定点からは、流行性角結膜炎2例の報告が、葛城保健所よりあった。

（高木 記）

県中部外来状況 外来数は少しずつ増加中。週報でトップの感染性胃腸炎はそう多い印象ではなく、下痢の例が僅かに見られる程度。ロタはまだ陰性。高熱、咽頭発赤の夏風邪のアデノ様の例がまだ続いている。夏に罹患せずに経過した児に多い印象。ヘルパンギーナが少しあったが増加の傾向なし。手足口病では、膝・臀部の水疱で非典型例と思われる手足口病例が続いた。RSウイルス気管支炎も夏過ぎてからのキット陽性例はまだない。マイコプラズマ様の学童例が何例かあったが、抗体価は80倍程度と確定診断に至らず。風疹の流行が報じられているが、一例全身発疹の疑い例があり血液検査中、但しMR接種済み。その他の登録疾患はなかった。

（岡本 記）

県南部地区概況 報告数（第37週→第38週）は22例→11例と減少。報告のあった疾患は、①A群溶連菌咽頭炎（2例→3例）、②水痘（0例→2例）、②手足口病（2例→2例）、②突発性発疹（5例→2例）、⑤感染性胃腸炎（3例→1例）、⑤マイコプラズマ肺炎【基幹定点】（1例→1例）であった。

（柳生 記）

県南部外来状況 気候の変わり目で一時喘息がやや多かったが、予防接種以外総じて外来数は多くない。今夏ヘルパンギーナも少なく、手足口病は全く見られなかったが、第38週になって幼稚園で姉妹例など数名の手足口病があった。いずれも軽症。他は突発性発疹症と水痘が少しあったのみ。アデノウイルス感染症も見られる。

（山本 記）



奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター **Nara IDSC**
 （奈良県保健環境研究センター内）



● 今週の概要

- 今週の感染症情報
- 病原体（ウイルス）検出情報（9月）



（調査週）平成 24 年 第 40 週 10 月 1 日（月）～10 月 7 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週前からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	感染性胃腸炎	2.09	→	→	→～↑	↑↑
2	RS ウイルス感染症	0.89	↑	→～↑	→～↑	→
3	A 群溶連菌咽頭炎	0.71	↑	→～↑	↑↑	↑
4	手足口病	0.37	↑	↑↑	→	↓
4	突発性発しん	0.37	→	→	→	→

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は71例で、前週報告の64例からやや増加。上位5疾患は、①感染性胃腸炎、②RSウイルス感染症、③手足口病、④A群溶連菌咽頭炎、⑤水痘の順。手足口病の報告数（11例）は、ほぼ倍増。感染性胃腸炎の報告数（21例）は、増加。水痘の報告数（6例）は、やや増加。RSウイルス感染症の報告数（14例）は、やや減少。A群溶連菌咽頭炎の報告数（7例）も、やや減少。また、インフルエンザ定点からの報告は、奈良市HC管内；1例のみだった。郡山HC管内眼科定点から、流行性角結膜炎が1例報告された。奈良市HCおよび郡山HC両管内基幹定点からの報告はなかった。

（村井 記）

県北部外来状況 外来患者数は増加していないが、RSウイルス感染症が先週より増加してきた。年齢は2才以下の保育園児が多く、例年通り鼻水がひどく、続いて咳と朝低く夕方より高くなる熱が繰り返し、徐々にゼロゼロとした咳に変わってきます。もちろん、鼻水とせきの普通の風邪も増えてきました。（矢追 記）

県中部地区概況 報告数は、77例から89例と増加した。上位5疾患は、感染性胃腸炎、RSウイルス感染症・A群溶連菌咽頭炎、咽頭結膜熱、水痘・突発性発疹の順であった。感染性胃腸炎は、39例から44例と増加傾向であり、RSウイルス感染症も、11例と増加傾向である。A群溶連菌咽頭炎は、2例から11例と著明に増加している。基幹定点および眼科定点からの報告はなかった。（高木 記）

県中部外来状況 外来数は横ばい、増加していない。短期の発熱、軽度咳嗽程度の感冒が多い。感染性胃腸炎もほぼ横ばい。ノロ陽性例も出てきた。ロタはまだない。典型レントゲン像のマイコプラズマ肺炎が続き、男児1例、姉妹例（2例）があった。流行性耳下腺炎が1例。その他の登録疾患はなかった。（岡本 記）

県南部地区概況 報告数（第39週→第40週）は12例→24例と増加。報告のあった疾患は、①感染性胃腸炎（4例→8例）、②A群溶連菌咽頭炎（0例→7例）、③RSウイルス感染症（0例→6例）、④突発性発疹（4例→3例）であった。

（柳生 記）

県南部外来状況 ワクチン以外の外来数はあまり多くない。咳、鼻汁のかぜが多い。第39週は手足口病、ヘルパンギーナが僅かに見られたのみ。第40週でRSウイルス感染症が増加したが、他は突発性発疹症と感染性胃腸炎が少し見られたのみであった。

（山本 記）



奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター **Nara IDSC**
 （奈良県保健環境研究センター内）



■ 今週の概要

- 今週の感染症情報
- 奈良県結核患者情報（平成 24 年 9 月）
- 保健環境研究センター 10 月便り ②
- 全数把握対象感染症発生状況（平成 24 年 9 月）



（調査週）平成 24 年 第 42 週 10 月 15 日（月）～10 月 21 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週前からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	感染性胃腸炎	2.43	→～↑	→	↑	↑
2	RS ウイルス感染症	1.03	→～↑	→～↑	→～↑	↓
3	A 群溶連菌咽頭炎	0.37	→	→～↑	→	↓
4	突発性発しん	0.34	→	→～↓	→～↑	↓
5	水痘	0.23	→	↓	↑	↓

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は 62 例で、前週報告の 68 例からやや減少。上位 5 疾患は、①RS ウイルス感染症、②感染性胃腸炎、③A 群溶連菌咽頭炎、④手足口病、⑤突発性発しんの順となり、第 41 週からは RS ウイルス感染症が感染性胃腸炎と入れ替わって第 1 位となった。A 群溶連菌咽頭炎の報告数（7 例）は、ほぼ倍増。RS ウイルス感染症の報告数（24 例）は、やや増加。手足口病の報告数（5 例）は、横ばい。突発性発しんの報告数（4 例）も、横ばい。感染性胃腸炎の報告数（18 例）は、やや減少。また、インフルエンザ定点からの報告は、奈良市 HC および郡山 HC 両管内共になかった。

奈良市 HC および郡山 HC 両管内眼科定点からの報告はなかったが、奈良市 HC 管内基幹定点から、マイコプラズマ肺炎が 1 例報告された。

（村井 記）

県北部外来状況 3 週前より RS ウイルスによる気管支炎が保育園の乳幼児で大流行している。感染力は強いので、あっという間に全員感染してしまい、すぐ収束するが、別の保育園に飛び火しまた流行している。発熱期間は長くて 4-5 日、以前に感染の既往のある子は 1-2 日で解熱している。他にはケンケンした犬の遠吠えに似たグループ様の咳と発熱のウイルス性のかぜがこれも保育園の年長児に流行している。

（矢追 記）

県中部地区概況 報告数は、74 例から 101 例と増加した。上位 5 疾患は、感染性胃腸炎、RS ウイルス感染症、突発性発疹、水痘、咽頭結膜熱・A 群溶連菌の順であった。感染性胃腸炎は、41 例から 58 例と増加し、RS ウイルス感染症は、7 例から 12 例と増加傾向である。基幹定点からは、葛城保健所よりマイコプラズマ肺炎 1 例の報告があった。眼科定点からの報告はなかった。

（高木 記）

県中部外来状況 外来数は多くない。ごく軽症の感冒が主。発生動向順では、感染性胃腸炎は嘔吐の例、嘔吐なしの下痢の例など種々、軽症。RS ウイルスもそう多くない。咽頭結膜熱はなかった。迅速では殆ど陰性判定であったが、発熱、咽頭所見、発疹を認める A 群溶連菌感染症の姉弟例があった。その他の登録疾患はなかった。

（岡本 記）

県南部地区概況 報告数（第 41 週→第 42 週）は 13 例→10 例と推移。報告のあった疾患は、①感染性胃腸炎（6 例→9 例）、②マイコプラズマ肺炎【基幹定点】（1 例→1 例）であった。

（柳生 記）

県南部外来状況 ワクチン接種者を除けば外来数は少ない。鼻汁、咳の軽い感冒症状が主。感染性胃腸炎はノロ疑い例や細菌性疑いなどが少し見られる程度。その後 RS ウイルス疑い例も目だって増加なく、その他登録疾患も認めない。

（山本 記）



平成 24 年 1 月 9 日 金曜日

奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター Nara IDSC
(奈良県保健環境研究センター内)



● 今週の概要

■ 今週の感染症情報

(調査週) 平成 24 年 第 44 週 10 月 29 日 (月) ~ 11 月 4 日 (日)

奈良県および二次医療圏別発生状況 (奈良県上位 5 疾患) (5 週前からの動向)

順位	疾患	定点当たり	奈良県	北部	中部	南部
1	感染性胃腸炎	4.80	↑	↑	↑	↑↑
2	RSウイルス感染症	0.60	→~↓	→~↓	→~↓	↓
2	水痘	0.60	↑	↑	↑	↓
4	A群溶連菌咽頭炎	0.46	→	→	→	→~↓
5	突発性発しん	0.34	→	→~↓	→~↑	↓

全県の動きと目立って異なる推移(定点当りの変化程度で実数ではない)を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は100例で、前週報告の107例からやや減少。上位5疾患は、①感染性胃腸炎、②RSウイルス感染症、③水痘、④A群溶連菌咽頭炎、⑤突発性発しんの順。感染性胃腸炎の報告数(60例)は、やや増加。水痘の報告数(10例)も、やや増加。RSウイルス感染症の報告数(12例)は、やや減少。A群溶連菌咽頭炎の報告数(8例)も、やや減少。突発性発しんの報告数(4例)も、やや減少。また、インフルエンザ定点からの報告は、奈良市HCおよび郡山HC両管内共になかった。郡山HC管内眼科定点から、流行性角結膜炎の報告が1例あったが、奈良市HCおよび郡山HC両管内基幹定点からの報告はなかった。

(村井 記)

県北部外来状況 外来患者数はインフルエンザ等の予防接種者を除けば多くない。保育園の乳幼児を中心にRSウイルス感染症の大流行が続いている。熱と気管支炎症状が出てこない迅速検査も陽性化しにくい印象がある。感染性胃腸炎もそろそろ出てきているがまだ多くない。溶連菌咽頭炎もよくみられる。

(矢追 記)

県中部地区概況 報告数は、102例から128例と増加した。上位5疾患は、感染性胃腸炎、水痘、RSウイルス感染症、A群溶連菌咽頭炎・突発性発疹の順であった。感染性胃腸炎は、65例から89例と増加し、水痘は、10例から11例と増加している。眼科定点からは、葛城保健所より流行性角結膜炎2例の報告があった。基幹定点からの報告はなかった。

(高木 記)

県中部外来状況 外来数は増加。軽度の感冒が主。マイコプラズマ肺炎は情報程の流行は見られず。年長児に数例程度。RSウイルス感染症がすこしづつ増加傾向か。3ヶ月児の一例は紹介入院とした。感染性胃腸炎は嘔吐を中心としたノロウイルス性と思われる例があるが、迅速ではノロ、ロタ陽性例はなかった。その他、他院で陽性と診断されたアデノ例が1例あった。

(岡本 記)

県南部地区概況 報告数(第43週→第44週)は15例→22例と増加。報告のあった疾患は、①感染性胃腸炎(9例→19例)、②A群溶連菌咽頭炎(0例→1例)、③突発性発疹(4例→1例)、④流行性角結膜炎【眼科定点】(1例→1例)であった。

(柳生 記)

県南部外来状況 予防接種を除けば外来数は余り増加していない。やはり鼻水と咳の軽い感冒が主であるが、高熱の続くものも少し増加した。感染性胃腸炎が流行し始めた。当初アデノも僅かに有ったが、今週、ノロ迅速陽性を含む、保育所や家族内感染例が急増した。軽い嘔吐に続く下痢の他、嘔吐のみ、下痢のみ、中学生で高熱、腹痛の強いものなど色々あり。キャンピロバクターもあった。手足口病が1例あり。今週、RSV感染症の家族例も認めた。

(山本 記)



感染症情報センターホームページアドレス

<http://www.pref.nara.jp/dd.aspx?menuid=27874.htm>



平成 24 年 11 月 22 日 木曜日

奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター **Nara IDSC**
(奈良県保健環境研究センター内)

● 今週の概要

- 今週の感染症情報
- 流行感染症情報：感染性胃腸炎
- 全数把握対象感染症発生状況（平成 24 年 10 月）

流行が拡大している感染症について
今週から掲載していきます。

(調査週) 平成 24 年 第 46 週 11 月 12 日 (月) ~ 11 月 18 日 (日)

奈良県および二次医療圏別発生状況 (奈良県上位 5 疾患) (5 週前からの動向)

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	感染性胃腸炎	12.80	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑
2	A群溶連菌咽頭炎	0.77	↑	↑↑	→~↓	↓
3	水痘	0.71	↑	→~↑	↑	↑↑
4	RSウイルス感染症	0.51	→~↓	→~↓	↓	↑
5	突発性発しん	0.37	→	↑	→	→~↓

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は248例で、前週報告の160例から増加。上位5疾患は、①感染性胃腸炎、②A群溶連菌咽頭炎、③RSウイルス感染症＝水痘＝手足口病の順。感染性胃腸炎の報告数（180例）は、2週連続での急増。A群溶連菌咽頭炎の報告数（23例）は、ほぼ倍増。手足口病の報告数（10例）は、やや増加。RSウイルス感染症の報告数（10例）は、ほぼ横ばい。水痘の報告数（10例）も、ほぼ横ばい。また、インフルエンザ定点からの報告は、第43週に1例報告されて以降、第46週まで奈良市HCおよび郡山HC両管内共になかった。郡

山HC管内眼科定点から、流行性角結膜炎の報告が2例あった。また、郡山HC管内基幹定点からは、マイコプラズマ肺炎が2例報告された。

(村井 記)

県北部外来状況 外来患者数は、やや増加しているが、一方、予防接種は非常に多い。RSウイルス感染症は減少しているが、まだみとめられる。感染性胃腸炎が徐々に増えてきている。症状は嘔吐と下痢、腹痛であるが、1-2日で軽快することが多いようである。

(矢追 記)

県中部外来状況 外来数は少しずつ増加中。咳が主のRS、マイコプラズマ様の例が多いが、RS陽性例は少ない。今週になって近小学校でノロウイルス様嘔吐のため学級閉鎖続出。中に、キャンピロバクター、O25感染症もあった。水痘が流行中。高熱例はわずか、インフルエンザ陽性例はなかった。

(岡本 記)

県南部地区概況 報告数（第45週→第46週）は53例→68例と増加。報告のあった疾患は、①感染性胃腸炎（40例→61例）、②RSウイルス感染症（6例→3例）、③水痘（2例→2例）、④咽頭結膜熱（0例→1例）、④突発性発疹（3例→1例）であった。

(柳生 記)

県南部外来状況 外来数は各種ワクチンを除けば横這い～やや増加程度。感染性胃腸炎が激増、殆どがノロウイルスの模様で幼稚園等で大流行、家族内感染率も高い。軽い下痢程度の保育園児もノロ迅速陽性を認めた（便色クリーム色）。第45週でRSウイルス感染症がやや多かったが第46週では見られなかった。水痘がやや。第45週で手足口病が1例あった。インフルエンザ様ではないが主に高熱の続く幼児例がやや有り。

(山本 記)



奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター **Nara IDSC**
 （奈良県保健環境研究センター内）



● 今週の概要

- 今週の感染症情報
- 流行感染症情報：感染性胃腸炎
- 保健環境研究センター12月便り①



（調査週）平成 24 年 第 4 8 週 1 1 月 2 6 日（月）～1 2 月 2 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週前からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	感染性胃腸炎	15.11	↑	↑↑	→～↑	→
2	RS ウイルス感染症	0.89	→～↑	→	→	↑↑
3	水痘	0.74	→	↑	→～↓	→～↑
4	A 群溶連菌咽頭炎	0.63	→	→	↓	↑↑
5	咽頭結膜熱	0.29	↑	→～↑	↑	↑↑

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は367例で、前週報告の243例から急増。上位5疾患は、①感染性胃腸炎、②水痘、③A群溶連菌咽頭炎、④RSウイルス感染症、⑤咽頭結膜熱＝突発性発しんの順。感染性胃腸炎の報告数（305例）は、急増。水痘の報告数（17例）は、増加。RSウイルス感染症の報告数（14例）は、やや増加。A群溶連菌咽頭炎の報告数（16例）は、ほぼ横ばい。咽頭結膜熱の報告数（3例）も、ほぼ横ばい。突発性発しんの報告数（3例）も、ほぼ横ばい。また、インフルエンザ定点からの報告は、奈良市HC管内より2例あった。郡山HC管内眼科定点から、急性出血性結膜炎と流行性角結膜炎の報告が、各々1例ずつあった。また、郡山HC管内基幹定点からは、マイコプラズマ肺炎が2例報告された。（村井 記）

県北部外来状況 先週からノロウイルスと思われる感染性胃腸炎が急増している。症状は突然の嘔吐と腹痛で始まり、下痢は生じない例も多く、熱もほとんど出ない。嘔吐は大部分の例でほぼ1日間で軽快しており、例年に比べさらに軽症であるようだ。RSウイルス感染症はほとんど無くなり、水痘が増加の兆しがある。（矢追 記）

県中部地区概況 報告数は、261例から228例と減少した。上位5疾患は、感染性胃腸炎、RSウイルス感染症、水痘、インフルエンザ、咽頭結膜熱・突発性発疹の順であった。感染性胃腸炎は、185例と増加傾向であり、RSウイルス感染症は、12例と横ばいである。インフルエンザは、6例と今季初めての複数報告となった。基幹定点からは、マイコプラズマ肺炎2例の報告が、葛城保健所よりあった。眼科定点からは、流行性角結膜炎2例の報告が、葛城保健所よりあった。（高木 記）

県中部外来状況 外来数はやや増加傾向。嘔吐を主とするノロ様の感染性腸炎が急増中。通常軽傷に経過するが、高熱例もある。頭痛を訴える例が多い印象。3歳未満の検査実施例では陽性を確認。ロタはない。RS気管支炎例が増加、乳児で検査陽性例が多く、経過は重い例では喘鳴強度、40度の高熱となる例もあった。3～4歳児にもRSらしい咳そう例がある。咽頭発赤、高熱例があるが、インフルエンザ様ではなく検査陽性例はまだない。他に水痘が少し。（岡本 記）

県南部地区概況 報告数（第47週→第48週）は73例→53例と減少。報告のあった疾患は、①感染性胃腸炎（63例→39例）、②RSウイルス感染症（1例→5例）、③A群溶連菌咽頭炎（0例→3例）、④咽頭結膜熱（0例→2例）、④水痘（4例→2例）、⑥インフルエンザ（0例→1例）、⑥突発性発疹（2例→1例）であった。（柳生 記）

県南部外来状況 ワクチン接種者を除けば外来数は特に増加していない。先の二週間で激増した感染性胃腸炎は減少気味となった。迅速陽性も含めて全てノロと思われた。第47週で水痘がやや多かった。手足口病も一例あった。RSウイルス感染症はなかった。インフルエンザもまだ認めていない。今週、一日置きの日峰性の発熱と二峰目に発疹を伴う幼児姉弟例があった。初発の姉は38℃台、顔面→大腿に粟粒大発疹、3日後発熱の弟は二峰目41.4℃あり、軀幹に同様の発疹が出現した。（山本 記）



奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター **Nara IDSC**
 （奈良県保健環境研究センター内）

● 今週の概要

- 今週の感染症情報
- 流行感染症情報：感染性胃腸炎
- 全数把握対象感染症発生状況（平成 24 年 11 月）
- 月報告対象感染症（性感染症・薬剤耐性菌感染症）発生状況（11 月）
- 病原体（ウイルス）検出情報（11 月）

（調査週）平成 24 年 第 50 週 12 月 10 日(月)～12 月 16 日(日)

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週間からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	感染性胃腸炎	10.31	→	→	→～↓	→～↓
2	水痘	1.03	→	→～↑	→	→～↓
3	RS ウイルス感染症	0.80	→	→	→	↑
4	A 群溶連菌咽頭炎	0.60	→	→～↓	→	↑
5	インフルエンザ	0.55	↑↑	↑↑	↑↑	↓

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は 290 例で、前週報告の 363 例から減少。上位 5 疾患は、①感染性胃腸炎、②水痘、③A 群溶連菌咽頭炎、④インフルエンザ、⑤RS ウイルス感染症の順。インフルエンザの報告数（3→18 例）は、増加。水痘の報告数（17 例）は、やや増加。A 群溶連菌咽頭炎の報告数（13 例）は、ほぼ半減。感染性胃腸炎の報告数（215 例）は、減少。RS ウイルス感染症の報告数（11 例）は、やや減少。インフルエンザ定点からの報告は、奈良市 HC 管内；1 例、郡山 HC 管内；17 例の計 18 例、定点当たりの報告数は 0.67 で、また、上位 5 疾患に入った。奈良市 HC および郡山 HC 両管内眼科定点から、流行性角結膜炎

の報告が、各々順に 1 例、4 例と計 5 例あった。また、郡山 HC 管内基幹定点からは、マイコプラズマ肺炎が 1 例（5～9 歳児）報告された。（村井 記）

県北部外来状況 ノロウイルスの感染性胃腸炎の大流行は先週を頂点に減少に向かっている。症状は軽症がほとんどで、嘔吐と下痢は 2 日間位で軽快している。溶連菌咽頭炎と水痘がみられるが、インフルエンザはまだない。（矢追 記）

県中部地区概況 報告数は、213 例から 164 例と減少した。上位 5 疾患は、感染性胃腸炎、水痘、RS ウイルス感染症、インフルエンザ、A 群溶連菌咽頭炎の順であった。感染性胃腸炎は、153 例から 111 例と減少傾向であり、水痘は 17 例と横ばいである。インフルエンザは、6 例から 12 例と急増し、定点当たりのインフルエンザ患者の報告数は、0.55 であった。基幹定点および眼科定点からの報告はなかった。（高木 記）

県中部外来状況 外来数は少し増加傾向であるが急増という程でない。咽頭発赤の軽度の感冒があるがインフルエンザ様例はない。RS 陽性例が増加しており、3～4 ヶ月児で、40 度発熱、喘鳴強度、経口摂取減少の数例があり紹介入院とした。同胞の年長児でも同様症状例があり、RS と思われたが中等症状で経過した。RS 検査実施可能年齢、及び機関定点報告の点が改善されなければ正しい発生動向調査と言えない状況である。感染性胃腸炎が流行、大半はノロと思われる。発熱、頭痛を伴う例もあった。血便を伴う乳児があったが、ノロ陰性で、ペロ毒素陰性の大腸菌 O15, O1 等が検出された。ロタはまだない。現在、感染性胃腸炎は、ノロ、ロタ、細菌性その他、症状のみからの合計報告となり、詳細に分析可能となった現在、正しい情報提供源機能として今後検討されるべき。その他水痘が流行中。（岡本 記）

県南部地区概況 報告数（第 49 週→第 50 週）は 51 例→48 例と推移。報告のあった疾患は、①感染性胃腸炎（38 例→35 例）、②RS ウイルス感染症（4 例→6 例）、③A 群溶連菌咽頭炎（1 例→2 例）、④水痘（6 例→2 例）、⑤咽頭結膜熱（0 例→1 例）、⑥手足口病（0 例→1 例）、⑦流行性耳下腺炎（0 例→1 例）であった。（柳生 記）

県南部外来状況 一般外来数は横這い～やや増加程度。感染性胃腸炎が多く、第 50 週で再び急増した。大半がノロと思われるが、嘔吐、下痢頻回、クリーム色水様便の 1 才例で便迅速アデノ陽性もあった。RS ウイルス感染症が 2 週続いて見られたが重症例はなかった。水痘が増加。アデノウイルス感染症、マイコプラズマ肺炎もあり。インフルエンザ疑い例はなかった。（山本 記）



奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター **Nara IDSC**
 （奈良県保健環境研究センター内）



● 今週の概要

- 今週の感染症情報
- 流行感染症情報：感染性胃腸炎



（調査週）平成 24 年 第 52 週 12 月 24 日(月)～12 月 30 日(日)

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週間からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	感染性胃腸炎	7.34	→～↓	→～↓	→～↓	→
2	水痘	1.57	→～↑	↑	↑	→～↓
3	RS ウイルス感染症	1.17	→～↑	→～↑	↑	↓
4	インフルエンザ	0.69	↑	↑↑	↑	↑↑
5	A 群溶連菌咽頭炎	0.69	→	→	↑	↓

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は218例で、前週報告の267例から減少。上位5疾患は、①感染性胃腸炎、②水痘、③RSウイルス感染症、④A群溶連菌咽頭炎、⑤インフルエンザの順。インフルエンザの報告数（22例）は、倍増。水痘の報告数（22例）は、増加。RSウイルス感染症の報告数（21例）は、横ばい。感染性胃腸炎の報告数（125例）は、減少。A群溶連菌咽頭炎の報告数（15例）も、減少。また、インフルエンザ定点からの報告は、奈良市HC管内；7例、郡山HC管内；15例の計22例で前週報告数より倍増し、定点当たりの報告数は0.81だった。奈良市HCおよび郡山HC両管内眼科定点と基幹定点からの報告は、いずれからもなかった。

（村井 記）

県北部外来状況 外来患者数は少ない。ノロウイルスの感染性胃腸炎が12月初旬をピークに減少が続いている。年令も乳幼児中心から中学生以上成人に移行し、総じて軽症である。インフルエンザがそろそろ出てきているが流行は1月中旬以降と思われる。RSウイルス感染症の流行も落ち着いてきたが、まだまだみられる。

（矢追 記）

県中部地区概況 報告数は、234例から183例と減少した。上位5疾患は、感染性胃腸炎、水痘、RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、インフルエンザの順であった。感染性胃腸炎は、159例から95例と減少し、水痘は、24例から30例と増加している。インフルエンザは、15例と増加している。基幹定点からは、マイコプラズマ肺炎1例（5～9歳）の報告が、葛城保健所よりあった。眼科定点からは、流行性角結膜炎1例（40～59歳）の報告が、葛城保健所よりあった。

（高木 記）

県中部外来状況 外来数は、年末はノロウイルス及びRSウイルス感染症で多かったが年明けは大変少ない状況。感染性胃腸炎、RSは減少、水痘が増加。インフルエンザはまだ一例もない。

（岡本 記）

県南部地区概況 報告数（第51週→第52週）は49例→43例と推移。報告のあった疾患は、①感染性胃腸炎（30例→37例）、②水痘（11例→3例）、③RSウイルス感染症（2例→1例）、④インフルエンザ（0例→1例）、⑤流行性角結膜炎【眼科定点】（0例→1例）であった。

（柳生 記）

県南部外来状況 外来数はやや増加程度、第52週で今季当院初めて中学生女子のインフルエンザが1例あった。橿原のショッピングセンターに出かけていた。その後は第2週現在まで全くインフルエンザは出ていないが、アデノウイルス感染症、マイコプラズマ疑い肺炎、中学生の溶連菌感染症など、多彩。RSウイルス感染症も多くはなかったが持続的に見られ、年明けから増加傾向。ノロと思われる感染性胃腸炎は11月初旬からの大流行ほどではないが家族内感染が多く、ほぼ全年齢層にわたって患者が多数見られた。流行性耳下腺炎が地域の保育所、小学校で流行中。水痘も引き続き流行している。

（山本 記）